

基準11 管理運営

資料 11-1-①-1

○米子工業高等専門学校運営組織規則（抜粋）

（目的）

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第1号）及び米子工業高等専門学校学則に定めるもののほか、米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）の運営組織について定めるものとする。

（校長補佐）

第2条 本校に校務を分担し校長を補佐するため次の校長補佐を置く。

担 当 名	任 命	主な職務
校長補佐（企画）	校長が指名する教員	企画・点検評価等に関すること
校長補佐（国際交流）	校長が指名する教員	国際交流・卒業生ネットワーク等に関すること
校長補佐（教務）	教務主事	教務に関すること（専攻科を除く）
校長補佐（学生）	学生主事	学生指導・学生支援に関すること
校長補佐（寮務）	寮務主事	寮務に関すること
校長補佐（専攻科）	専攻科長	専攻科に関すること

2 校長補佐（企画）及び校長補佐（国際交流）の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は前任者の残任期間とする。

3 校長補佐に欠員が生じた場合、後任の職員を補充するまでの間、欠員の生じた職を校長又は他の校長補佐が兼ねるものとする。

4 校長補佐は、対外的な呼称とする。

（後略）

（出典 規則集）

平成25年7月

米子工業高等専門学校報

(6)

4月 校内会議

月 日	会 議 名	主 な 議 題 等
4.2	運営会議	平成25年度米子高専運営方針等について 平成25年度年度計画について 平成25年度各種委員会委員等について 副校長業務の分担について 平成25年度入学式について 平成25年度授業参観について 平成25年度高等専門学校改革推進経費プログラムの申請について 南ソウル大学校との国際交流協定締結について 3/22開催の高専機構校長・事務部長会議について 平成25年度主要日程について 労使協定の締結について 平成24年度(後期)共同研究助成・技術相談助成金の配分について 平成24年度(後期)地域貢献助成金の配分について 今後の行事予定について 教員会議の議題について
〃	教員会議	平成25年度米子高専運営方針等 平成25年度入学式について 学生の個人情報に関わるセキュリティに関するガイドラインについて 南ソウル大学校との国際交流協定締結について 平成25年度教務部の方針について 始業式当日(4月3日)の日程について 入学式当日(4月4日)の日程について 平成25年度修学ガイダンスの日程について 平成25年度新入生大山オリエンテーションの日程について 原級留置学生(留年生)等一覧について 在籍学生数について 編入学生一覧について 平成25年度教室の配置について 平成25年度授業参観について 平成25年度学生部の方針について 年度当初の諸連絡について 平成25年度定期健康診断実施計画について 平成25年度就学上の留意事項(健康)を伴う学生について 各種大会成績について 平成25年度寮務部指導方針と取り組みについて 平成25年度寮務部の役割分担について 退寮生について 平成25年度寮生数について 4月の主な寮行事予定について 専攻科担当教員分掌について 平成25年度専攻科生数について 専攻科入試日程について 平成25年度中国・四国地区高専専攻科生研究交流会について 学生の異動(退学)について 図書館情報センターの運営について 平成25年度地域共同テクノセンターの運営について 平成24年度地域貢献活動の実施状況について 平成25年度の学生相談室について 平成25年度特別支援を必要とする学生について その他 ・教員親睦会について
4.17	運営会議	平成25年度年度計画について H26年度認証評価・JABEE中間審査に関わるスケジュールと協力をお願い 平成25年度教育研究設備維持運営費の配分について 広報室の運営等について 第20回全国高等専門学校将棋大会実施体制について 米国パーモント州高校生との学校交流について 科学研究費申請・採択状況について 平成24年度下期校内巡視による改善指示事項等について 平成25年度個人情報利用許諾に関する調査結果について 今後の行事予定について 学科長会議の議題について
〃	学科長会議	平成25年度年度計画について H26年度認証評価・JABEE中間審査に関わるスケジュールと協力をお願い 米国パーモント州高校生との学校交流について 科学研究費申請・採択状況について 平成24・25年度外部資金等受入状況について 広報室の運営等について 平成25年度不動産監守者及び不動産補助監守者の指定について 平成25年度 物品管理役・物品出納役・物品供用役について

(出典 平成25年7月 学校報第196号 P.6)

資料 11-1-②-1 委員会の活動状況例

平成25年7月

米子工業高等専門学校報

(7)

4月 校内会議 ②

月 日	会 議 名	主 な 議 題 等
4.17	入試委員会	平成26年度4年次編入学試験の実施について 平成26年度入学者選抜検査日程(案)について 平成26年度の入学者募集活動について 第1回オープンキャンパスについて 平成26年度入試学校説明会について
4.23	学生委員会	制服変更を含めた制服指導の見直しについて 奨学金について
	寮務委員会	年度当初にあたって 女子寮生の増加対策について 前期学生寮避難訓練について 違反点数制度について
4.24	教務委員会	平成25年度LHRの年間計画について 平成25年度学業成績の処理日程について 平成25年度修学ガイダンス欠席者について 非常勤講師について 時間割について 科目間連絡会(仮称)の設置(案)について 平成25年度予算要求について 科目等履修生について
4.25	安全衛生委員会	平成25年度安全衛生委員会委員について 前回の議事概要の確認 前回巡視の対応について 平成25年度安全衛生管理組織について 平成25年度安全衛生推進計画(案)について 平成25年度学校安全計画(案)について 平成25年度学校保健計画(案)について 平成25年度心の健康づくり計画(案)について 平成24年度下期校内巡視による改善指示事項等について 洗浄又は払拭の業務等における化学物質のばく露防止対策について インフルエンザ様症状のある学生・教職員の把握及び発生の報告等について 実験・実習における安全管理の徹底について 今月の校内巡視状況について

5月 校内会議

月 日	会 議 名	主 な 議 題 等
5.1	運営会議	防災防火体制について 平成25年度防災避難訓練について 広報室室員の追加について 図書館情報センター改修準備委員会委員の追加について 平成19年度機関別認証評価受審時の指摘事項について 平成25年度安全衛生推進計画等について 実験・実習における安全管理の徹底について 今後の行事予定について 教員会議の議題について
	教員会議	米子高専平成25年度年度計画概要について 平成25年度追認試験について 平成25年度特別欠席(欠課)等に関する締切日について 学生事故について 各種大会成績について 寮の新たな取り組みについて 西寮・南寮玄関扉の電気錠の運用について 4月の寮行事報告について 5月の寮行事予定について 米子高専50年誌原稿募集について 防災避難訓練実施要項について 平成25年度安全衛生推進計画等について 実験・実習における安全管理の徹底について
5.8	入試委員会	平成26年度専攻科入学者選抜検査(推薦による選抜)実施要項(案)について 平成26年度編入学選抜検査(案)について 平成26年度以降の本科入学者選抜検査に係る提出書類の追加について 平成25年度入学生の入試成績と学力診断テスト結果について
5.15	運営会議	課外活動におけるスクールバス等の使用について 科学研究費補助金について 業務用端末とファイルサーバの運用について 境港市との包括連携協定について 今後の行事予定について 学科長会議の議題について

(出典 平成25年7月 学校報第196号 P.7)

資料 11-1-②-2

○米子工業高等専門学校事務部組織規則

(趣旨)

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（平成16年4月1日独立行政法人国立高等専門学校機構規則第4号）第10条第3項及び米子工業高等専門学校学則第11条の規定に基づき、事務部の組織及びその所掌事務を定める。

(事務部長)

第2条 事務部に、事務部長を置く。

2 事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(課長)

第3条 総務課及び学生課に、課長を置く。

2 課長は、上司の命を受け、課の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(課長補佐)

第4条 総務課に課長補佐（総務担当）及び課長補佐（財務担当）並びに学生課に課長補佐を置く。

2 課長補佐は、上司の命を受け、当該課の所掌事務のうち高度の専門的知識又は経験を必要とする特定分野の事務を直接処理するとともに専門的見地から課長を補佐し、課の事務を整理する。

(専門職員)

第5条 総務課に専門職員を置くことができる。

2 専門職員は、上司の命を受け、高度な専門業務及び経験を必要とする特定分野の事務を直接処理する。

(係及び係長)

第6条 総務課に総務係、人事労務係、企画・社会連携係、財務係、契約係及び施設係を、学生課に教務・キャリア支援係、学生係、寮務係及び学術情報係を置き、各係に係長を置く。

2 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

(主任)

第7条 係に主任を置くことができる。

2 主任は、上司の命を受け、係の事務のうち特定の事務を処理する。

(事務分掌)

第8条 総務課の事務を次のとおり分掌する。

2 課長補佐（総務担当）は、次の事務をつかさどる。

- (1) 総務課長を補佐し、総務課の総務業務を整理・調整すること。
- (2) 将来構想に関すること。
- (3) 自己点検・評価及び外部評価に関すること。
- (4) 広報に関すること。
- (5) 情報セキュリティに関すること。

3 課長補佐（財務担当）は、次の事務をつかさどる。

- (1) 総務課長を補佐し、総務課の会計業務を整理・調整すること。
- (2) 予算に関すること。
- (3) 会計事務の総括及び連絡調整に関すること。
- (4) 予算の編成、配分及び管理に関すること。
- (5) 会計機関の使用する公印の監守に関すること。

4 総務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学校の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
 - (2) 機密に関すること。
 - (3) 儀式その他会議に関すること。
 - (4) 学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。
 - (5) 渉外に関すること。
 - (6) 情報公開に関すること。
 - (7) 文書類の接受及び保管等に関すること。
 - (8) 公印を管守すること。
 - (9) 教職員の健康管理及び福祉に関すること。
 - (10) 教職員の労働時間、休暇及び旅行命令等に関すること。
 - (1) 1) 安全衛生管理に関すること。
 - (1) 2) 調査統計・その他諸報告に関すること。
 - (1) 3) 校内の警備取締に関すること。
 - (1) 4) この課の会計事務を除く事務のうち他の係に属しない事務を処理すること。
 - (1) 5) その他学生課の所掌に属しない事務を処理すること。
- 5 人事労務係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 教職員の任免及び就業（総務係の所掌に係るものを除く。）に関すること。
 - (2) 教職員の給与に関すること。
 - (3) 教職員の定員に関すること。
 - (4) 教職員の研修及び勤務評定に関すること。

(出典 規則集)

資料 11-1-②-2

- (5)教職員の災害補償に関すること。
 - (6)共済組合に関すること。
 - (7)退職手当に関すること。
 - (8)所得税の徴収に関すること。
 - (9)栄典、表彰に関すること。
 - (10)教職員団体に関すること。
 - (11)教職員の労働条件に関すること。
 - (12)人事記録に関すること。
 - (13)その他人事に関すること。
 - 6 企画・社会連携係においては、次の事務をつかさどる。
 - (1)諸事業・プロジェクトの企画・立案に関すること。
 - (2)中期計画・年度計画に関すること。
 - (3)外部資金の受入れに関すること。
 - (4)教員の研究協力に関すること。
 - (5)地域連携協力に関すること。
 - (6)国際協力に関すること。
 - (7)知的財産権に関すること。
 - (8)事務情報化の推進に関すること。
 - (9)事務用電子計算機の管理運用に関すること。
 - (10)情報処理業務に関すること。
 - (11)地域共同テクノセンターに関すること。
 - 7 財務係においては、次の事務をつかさどる。
 - (1)決算の総括に関すること。
 - (2)会計の監査及び検査に関すること。
 - (3)会計の諸規則に関すること。
 - (4)職員宿舎の入居及び退去に関すること。
 - (5)損害保険プログラムに関すること。
 - (6)計算証明に関すること。
 - (7)債権の管理に関すること。
 - (8)収入及び支出に関すること。
 - (9)諸謝金等の支出関連業務に関すること。
 - (10)現金、預金、貯金及びその他有価証券に関すること。
 - (11)自己収入、運営費交付金、外部資金及び預り金の経理に関すること。
 - (12)財務係に係る諸統計報告に関すること。
 - (13)その他会計事務で他係に属しない事項に関すること。
 - 8 契約係においては、次の事務をつかさどる。
 - (1)物品の管理及び計画に関すること。
 - (2)物品の調達及び役務の契約（施設係の所掌に係るものを除く。）に関すること。
 - (3)物件費等の支出関連書類（施設係の所掌に係るものを除く。）の作成に関すること。
 - (4)物品の出納及び保管に関すること。
 - (5)毒物及び劇物等の安全管理に関すること。
 - (6)不用物品の処分及び売払に関すること。
 - (7)清掃業務及びその他労務作業（施設係の所掌に係るものを除く。）に関すること。
 - (8)契約係に係る諸統計報告に関すること。
 - 9 施設係においては、次の事務をつかさどる。
 - (1)施設整備の長期計画に関すること。
 - (2)施設のマネージメント及び点検・評価に関すること。
 - (3)施設整備及び営繕工事並びに不動産に係る設計、契約、施工管理、監督及び届出等に関すること。
 - (4)電気、ガス、水道、電話及び冷暖房施設等の維持管理に関すること。
 - (5)不動産の管理及び処分に関すること。
 - (6)不動産登記に関すること。
 - (7)職員宿舎の維持管理に関すること。
 - (8)施設係に係る諸統計報告に関すること。
- 第9条 学生課の事務を次のとおり分掌する。
- 2 課長補佐は、次の事務をつかさどる。
- (1)学生課長を補佐し、学生課の業務を整理・調整すること。
 - (2)専攻科に関すること。
 - (3)学生募集に係る広報に関すること。
 - (4)J A B E Eに関すること。
 - (5)学生課に係る事務のうち、重要な調査、企画及び連絡調整に関すること。

(出典 規則集)

資料 11-1-②-2

- 3 教務・キャリア支援係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関する事。
 - (2) 学生募集（広報を除く。）に関する事。
 - (3) 学生の修学指導に関する事。
 - (4) 教育課程の編成及び授業に関する事。
 - (5) 学生の学業成績の整理及び記録に関する事。
 - (6) 学生の学籍に関する事。
 - (7) 学生の課外教育に関する事。
 - (8) 外国人留学生に関する事。
 - (9) インターシップに関する事。
 - (10) 就職及び進学に関する事。
 - (11) 校外研修及び工場見学旅行に関する事。
 - (12) その他教務・キャリア支援に関する事。
 - (13) この課の所掌事務のうち他の係に属しない事務を処理する事。
- 4 学生係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 学生及び学生団体の指導監督に関する事。
 - (2) 学生に対する奨学金、授業料の減免、猶予及び経済援助に関する事。
 - (3) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関する事。
 - (4) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関する事。
 - (5) 学生旅客運賃割引証に関する事。
 - (6) 学生の災害共済給付に関する事。
 - (7) 学生相談室に関する事。
 - (8) 特別支援教育に関する事。
 - (9) その他学生補導に関する事。
- 5 寮務係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 学生寮の管理運営に関する事。
 - (2) 学生の入退寮に関する事。
 - (3) 寮生の指導監督に関する事。
 - (4) その他寮務に関する事。
- 6 学術情報係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 図書館資料の受入れ並びに整理及び保存等に関する事。
 - (2) 図書館資料の閲覧、貸出等利用に関する事。
 - (3) 図書館における参考奉仕（検索指導、読書相談等）に関する事。
 - (4) 文献複写に関する事。
 - (5) 図書館情報センターの業務のうち情報教育及び校内情報ネットワークに関する事。
 - (6) その他図書館情報センターの事務に関する事。
- (雑則)
- 第10条 この規則に定めるもののほか、事務組織に関する必要な事項は、別に定める。
- (後略)

(出典 規則集)

○米子工業高等専門学校情報管理室規則

(設置)

第1条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報に係る全般的な事務業務を効率的に遂行するため、米子工業高等専門学校情報管理室（以下「情報管理室」という。）を置く。

(業務)

第2条 情報管理室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 情報セキュリティに関すること。
- (2) コンピュータ及びソフトウェア等の管理に関すること。
- (3) サーバ室の管理に関すること。
- (4) ネットワークに関すること。

(組織)

第3条 情報管理室に次の職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 副室長 技術教育支援センター職員（併任）
- (3) 室員 学生課職員（併任）

(室長)

第4条 室長は、事務部長をもって充て、情報管理室の業務を統括する。

(副室長)

第5条 副室長は、事務部長が技術教育支援センターの者から指名する。

- 2 副室長は、室長の命を受け、情報管理室の業務を処理する。
- 3 副室長は、室長に事故があるときは、室長の職務を代行する。

(室員)

第6条 室員は、事務部長が学生課学術情報係の者から指名する。

- 2 室員は、室長の命を受け、情報管理室の業務を処理する。

(協力室員)

第7条 情報管理室に、情報管理室の業務を支援するため、協力室員を置くことができる。

- 2 協力室員は、事務部長が総務課、学生課及び技術教育支援センターに所属する者からそれぞれ指名する。
- 3 協力室員は、室長が情報管理室における必要と認める特定の業務について、協力支援を行う。

(その他)

第8条 この規則に定めるもののほか、情報管理室における業務の詳細及びその他必要な事項は、別に定める。

附 則（平成25年8月7日規則第50号）

- 1 この規則は、平成25年8月7日から施行する。
- 2 情報管理室の業務は、学生課学術情報係事務室で行う。

(出典 規則集)

資料 11-1-②-4
委員会と事務組織の連携例（学科長会議）

○米子工業高等専門学校学科長会議規則（抜粋）

（設置）

第1条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、米子工業高等専門学校学科長会議（以下「学科長会議」という。）を置く。

（目的）

第2条 学科長会議は、校長の諮問に応じ、本校の教育・研究に関する重要事項について審議することを目的とする。

（構成員）

第3条 学科長会議は、次の者をもって構成する。

- (1) 校長
- (2) 校長補佐（企画，国際交流，教務，学生，寮務，専攻科）
- (3) 各学科長及び教養教育科長
- (4) 図書館長
- (5) 情報教育センター長
- (6) 地域共同テクノセンター長
- (7) 技術教育支援センター長
- (8) キャリア支援室長
- (9) 広報室長
- (10) 事務部長及び各課長
- (11) 技術教育支援センター技術長

（会議）

第4条 学科長会議は、原則として月1回開催する。

（意見の聴取）

第5条 校長が必要と認めるときは、第3条の構成員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

（専門委員会）

第6条 学科長会議に、必要に応じて各種の専門委員会を置くことができる。
2 専門委員会については、別に定める。

（事務）

第7条 学科長会議の事務は、総務課において処理する。

（後略）

（出典 規則集）

○米子工業高等専門学校危機管理体制点検・整備に関する要綱（抜粋）

1. 目的

(1) 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）において発生する又は発生することが予想される様々な事象に伴う危機に、迅速かつ的確に対処するため、本校における危機管理体制の点検・整備の在り方を定めることにより、本校の学生及び教職員の安全確保を図るとともに、本校の社会的な責任を果たすことを目的とする。

(2) 本校の危機管理については、この要綱によるもののほか、関係法令及び個々の危機ごとに定める国立高等専門学校機構（以下「機構本部」という。）及び本校の校内諸規則等に定めるところによる。

2. 定義

(1) 危機とは、災害及び火災のほか、危険物の漏洩、重篤な感染症などの重大な事件や事故で学生及び職員等の生命若しくは身体又は本校の財産、名誉若しくは組織の存続に重大な被害が生じ又は生ずるおそれがある緊急の事象及び状態をいう。

(2) 危機管理とは、危機発生の予防及び被害軽減のために平常時から行う措置並びに危機発生時において被害を最小限に抑制するための緊急の対応をいう。

3. 校長等の責務

(1) 校長は、本校における危機管理を統括する責任者であり、危機管理を推進するとともに、必要な措置を講じなければならない。

(2) 校長補佐（企画、国際交流、教務、学生、寮務、専攻科）及び事務部長は、校長を補佐し、危機管理の推進に努めなければならない。なお、災害時など校長が危機管理を統括することができない状況で且つ緊急性のある場合には、校長補佐（教務）が校長に代わって危機管理の統括をする。

(3) 本校の校内諸規則等に定める各種委員会等の長等は、当該業務の危機管理を実施するとともに、必要な措置を講じなければならない。なお、ここでいう各種委員会等の各所掌業務については（注）に掲げるものをいう。

(4) 教職員は、その職務遂行にあたり、危機管理に努めるとともに、これに専念しなければならない。

4. リスク管理室

(1) 危機に迅速且つ的確に対応するため米子工業高等専門学校リスク管理室（以下「リスク管理室」という。）を設置する。

(2) リスク管理室は、本校の危機管理に関するワンストップ機能を有する窓口とし、校長の指揮の下に、初期対処が必要な危機管理や緊急時の初動に必要な危機管理等に当たる常設のリスク管理組織とする。

(3) リスク管理室の構成は、次のとおりとする。

- ① 校長
- ② 校長補佐（教務）
- ③ 事務部長
- ④ 総務課長
- ⑤ その他必要に応じ校長が指名する者
- ⑥ 上記②から⑤に掲げる者をリスク管理員とする。

(4) リスク管理室は、学校内外との連携により次に掲げる業務を行い、学生等が本校に起因する危機により災害を被ることないよう常に配慮しなければならない。

- ① 「高専意見箱」等への通報等に対応する情報収集及び分析・調査
- ② 服務面や精神面に問題を抱える教職員の把握や面談による指導・支援
- ③ 想定される危機事象に関する情報収集や分析等を行い、危機管理マニュアル（案）等の作成・見直し及び周知を行う。
- ④ 関連部署と連携し学生等に対する情報提供支援
- ⑤ 関連部署と連携し職員及び学生への教育及び訓練の実施支援
- ⑥ 対策本部の組織体制及び活動内容の調整
- ⑦ 緊急時の情報伝達体制の整備
- ⑧ 危機管理体制点検・整備委員会の招集
- ⑨ その他危機管理に係る必要な事項の実施

(5) 校長が必要と認めるときは、危機管理に関する情報収集や調査のため、関係する者より意見聴取

（出典 規則集）

を行い、該当事項の意見を述べさせることができる。

5. 危機管理体制点検・整備委員会

(1) 校長は、本校の危機管理の点検等に関する総合的な体制を整備するため、米子工業高等専門学校危機管理点検・整備委員会（以下「危機管理委員会」という。）を設置する。

(2) 当該危機管理委員会構成員は、米子工業高等専門学校運営会議（以下「運営会議」という。）の構成員を充てる。

(3) 当該危機管理委員会の長は校長をもって充て、校長は危機の内容により関係する者を臨時的な構成員とすることができる。

(4) 当該危機管理委員会の審議の過程において危機内容の詳細を把握する必要性が生じた場合には、当該危機管理委員会の下に校長補佐（教務）を座長とする調査部会を設置する。

(5) 当該危機管理委員会に関し必要な事項は、別に定めることができる。

6. 平常時の危機管理

(1) 各種委員会等の長等は、平常時において、次に掲げる危機発生に対する予防及び軽減措置、啓蒙活動を行う。

① 該各所掌業務における学生及び教職員の危機管理の涵養を図る研修会及び訓練の実施

② その他当該各所掌業務における危機管理に係る必要な事項

(2) 危機管理委員会は、次に掲げる危機管理を行う。

① 教職員及び保護者を対象とする「高専意見箱」を設置し、本校の管理運営等に関する様々な問題、課題等を的確に把握できる体制とする。なお、「高専意見箱」の取扱については、別に定める危機管理マニュアルによる。

② 必要に応じて勤務態度が良好でない教職員及びメンタルヘルスの問題を抱える教職員への面談等を実施するなどして教職員の服務監督・健康管理状況が的確に把握できる体制とする。

③ 危機管理マニュアル等の作成及び危機管理対策の評価及び見直しを行う。

④ 1年に1度各種委員会等の危機管理状況を点検し、その改善・整備方策を検討する。

7. 緊急時の危機管理

(1) 学生及び教職員は、緊急に対処すべき危機が発生し又は発生するおそれがある場合は、リスク管理員又は校長へ通報しなければならない。

(2) 前項の通報を受けたリスク管理員又は校長は、速やかに当該危機の状況を確認し、必要な措置を講じなければならない。

8. 総合対策本部

(1) 校長は、全校的に危機管理対策を講じる必要があると判断する場合は、速やかに総合対策本部を設置する。

(2) 総合対策本部の組織は危機管理委員会が兼ねるものとし、緊急連絡体制等の必要な事項は、校長があらかじめ定め、教職員へ周知する。

(3) 総合対策本部は、校長が危機の終息の宣言を行ったときに解散する。

(4) 総合対策本部は、機構本部と相互連携を図り、次に掲げる業務を行う。

① 当該危機情報の収集及び分析

② 当該危機への対策の決定及び実施

③ 関係機関との連絡調整

④ 学生及び教職員への当該危機に関する情報提供

⑤ その他当該危機管理に関し必要な事項

9. その他の手続き

(1) 校長は、事案処置にあたり、運営会議等の審議を含め校内諸規則により必要とされる手続きを省略することができる。

(2) 前項の場合において、校長は、事案の対処の終了後に運営会議等に報告しなければならない。

10. 秘密の保持

秘密の保持本校のリスク管理又は危機対策に関する業務に従事する教職員は、その業務に関して知ることができた秘密を漏らしてならない。その職を退いたときも、同様とする。

(後略)

(出典 規則集)

資料 11-1-②-6 新型インフルエンザ対応マニュアル

平成21年8月31日

学生・保護者の皆さんへ

米子工業高等専門学校
校長

新型インフルエンザへの感染予防について

新型インフルエンザへの感染者は、全国的に夏に入っても増加し続けています。県内でも、学校等の部活動、スポーツ大会などにおける集団感染の事例が相次いでいます。

また、現在流行している新型インフルエンザは多くの方は軽症のまま回復していますが、インフルエンザ脳症など重症化する事例も見受けられます。

学校は感染が拡大しやすい場です。よって学校での感染防止がこの新型インフルエンザの拡大を防ぐ鍵となりますので、「広げない・かからない・うつさない」を合言葉に、家族全員で感染拡大防止に努めていただくようお願いします。

1 日常での注意事項《かからない、うつさないために!!》

～学生の様子をよく観察してください～

- (1) 新型インフルエンザの予防にはうがい、手洗いが有効です。感染防止のために、外出先から帰宅したらうがい、手洗いを徹底するようお願いします。
- (2) 毎朝、家庭で検温し、インフルエンザ様症状がないことを確認してから登校させてください。
- (3) 部屋の換気をこまめに実施してください。
- (4) ドアノブは毎日拭く等清潔に保つてください。
- (5) 発熱や呼吸器症状（咳・のどの痛み・鼻水など）のない方でも、スポーツ大会やコンサート等の後などには、うがい、手洗いを必ず実施してください。

2 感染が疑われる(感染した)場合《広げない・うつさないために!!》

～早めに受診し医師の指示に従ってください～

- (1) 発熱や呼吸器症状がある場合は、学校を休んで、かかりつけ医または総合発熱相談センターに電話で相談のうえ受診してください。早めの受診が重症化のリスクを減らします。
- (2) 受診の結果、インフルエンザと診断された場合は、学校に連絡し、医師の指示に従って療養してください。(別紙自宅療養の手引き参照)
- (3) 発熱や呼吸器症状のある生徒及び保護者の皆様は、部活動、及びスポーツ大会やコンサート等には参加しないようにしてください。
- (4) 咳などの症状がある場合は、*咳エチケットを心がけるようにしてください。

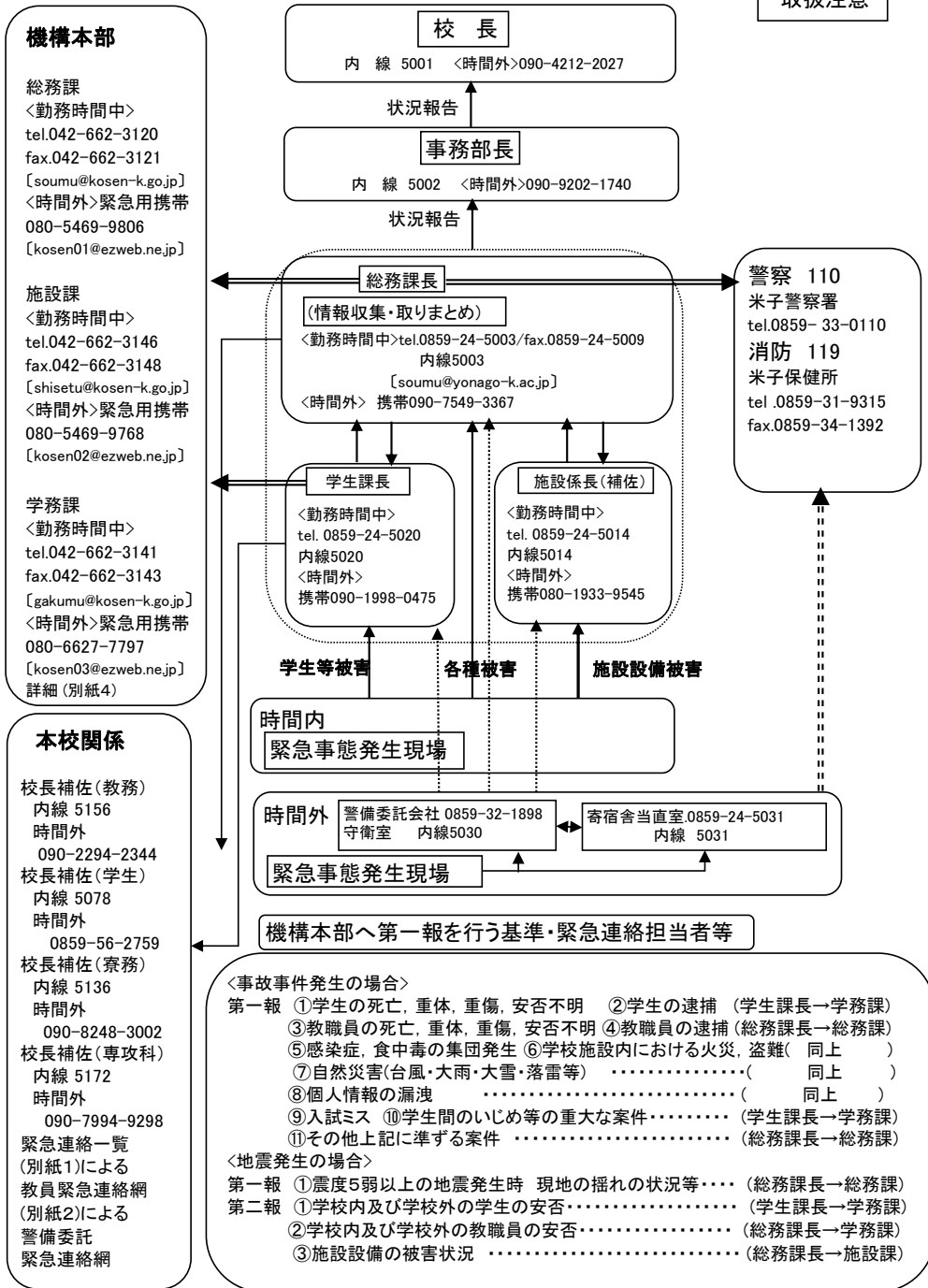
(裏面に続く)

(出典 校外向け Web ページ)

資料 11-1-②-7 災害及び事故事件発生時の情報連絡体制

災害及び事故事件発生時の情報連絡体制 (平成25年4月現在) 米子高専

取扱注意



(出典 校内 Web ページ 総務課総務係資料)

独立行政法人 国立高等専門学校機構


Yonago National College of Technology [イントラネット](#)

CONTENTS

- ▶ ホーム
- ▶ 米子高専校外向ホームページ
- ▶ シラバス
- ▶ 授業アンケート
- ▶ 教員顕彰
- ▶ 米子工業高等専門学校情報倫理ガイドライン
- ▶ 情報教育ホームページ
- ▶ 専攻科資料ダウンロード
- ▶ Call教室のホームページ

関連施設など

- ▶ 学生寮
- ▶ 図書館情報センター
- ▶ 地域共同テクノセンター
- ▶ 技術教育支援センター
- ▶ キャリア支援室

資料請求

- ▶ 資料請求

ログイン

ID	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
<input type="button" value="ログイン"/>	

学生の「一斉連絡システム」申請・登録について

部署 : 学術情報係

入力日時 : 2013年4月3日 19時14分27秒

緊急時（天候・自然災害、事件・事故等）の際の学校から学生への休校等の連絡方法について、「一斉連絡システム」を運用することとしました。

このシステムは、あらかじめ申請・登録された学生の携帯電話又は自宅パソコンのメールアドレスへ一斉に情報を送信することができるシステムで、学校からの情報を受信・確認することができます。

このシステムを運用するにあたっては、学生自身が受信する携帯電話又は自宅のパソコンのメールアドレス等の情報を申請・登録する必要がありますので、以下の「一斉連絡システム」申請・登録の手順から申請・登録を行ってください。

なお、メールアドレスを変更した場合はその都度、申請・登録をしてください。

【申請・登録についての問合せ：情報センター管理室、図書館事務室】

「一斉連絡システム」イメージ図

「一斉連絡システム」学生への通知

「一斉連絡システム」申請・登録の手順

(出典 校内 Web ページ)

資料 11-1-②-9 島根原発に関わる避難計画など検討資料

資料 8

25. 8. 7

危機管理委員会資料

運営会議資料

島根原子力発電所事故発生時を想定した防災訓練について

1. 報告概要

平成25年7月22日、鳥取県地域振興部教育・学術振興課長より、島根原発事故を想定した各学校独自の避難計画マニュアルを策定するとともに、予め指定する訓練実施日に防災避難訓練を実施して欲しい旨の依頼があった。

(1) 訓練実施日：11/5(火) 対策本部の連携(行政機関中心)

：11/10(日) 住民参加の実働訓練

(2) 訓練想定

・休日をも想定した訓練：部活動中の避難等

・平日をも想定した訓練：学校、学年、クラス等を単位とした避難

(休業日振替、授業時数等の学校行事計画の変更が必要)

(3) 訓練内容

・情報伝達訓練：本部⇄鳥取県⇄学校⇄学生・保護者

・屋内待避訓練：島根では訓練後に原子力防災に関する学習会を実施

・バスによる避難訓練：スクリーニング訓練の実施 など

※訓練内容の回答は7月中旬に

2. 今年度の問題点とその対応

(1) 11/5(火)は、今年度の年間授業スケジュール等は既に決定されており、大規模な防災訓練実施は難しい状況である。

(2) 11/10(日)はデザコン(3次元デジタル設計造形コンテスト含む)や中国地区高専体育大会(冬季)の日程と重複するため対応は困難である。



情報伝達の確認訓練

3. 今後の検討課題

(1) 早急な原子力災害発生時の避難計画マニュアルの整備が必要である。

(2) 土日や夜間における避難訓練方法についても別途、検討が必要である。

(出典 平成25年8月7日 危機管理委員会資料)

独立行政法人 国立高等専門学校機構

高専 米子工業高等専門学校

Yonago National College of Technology

検索

▶ 入学を希望される方 ▶ 地域社会の方 ▶ 企業の方 ▶ 卒業生の方 ▶ 同窓会 ▶ 在学生の方

米子高専紹介コーナー

ホーム > 外部評価・自己点検評価 > 自己点検評価

自己点検・評価報告書

H25 自己点検・評価報告書

H24 自己点検・評価報告書

H17 自己点検・評価報告書

卒業生メッセージ

CONTENTS

- ▶ ホーム
- ▶ 学校案内
- ▶ About YNCT
- ▶ 専攻科案内とシラバス
- ▶ 学科案内とシラバス
- ▶ 入学案内
- ▶ JABEE
- ▶ キャンパスライフ
- ▶ 学生の活躍
- ▶ 各種講座案内
- ▶ 産学連携・地域サービス
- ▶ 後援会
- ▶ 同窓会
- ▶ 保護者の方へ
- ▶ 新型インフルエンザ対応
- ▶ 情報公開
- ▶ 教育・研究
- ▶ 外部評価・自己点検評価
- ▶ 本校の取組み
- ▶ 施設
- ▶ 採用情報

(出典 校外向け Web ページ 自己点検・評価報告書)

平成25年度米子工業高等専門学校評議員会議事要旨

1. 日 時 平成25年12月9日(月) 14:00～16:25

2. 場 所 米子全日空ホテル 2F 琥珀鳥の間

3. 出席者 【委員】

河田 康志 (議長) (鳥取大学工学部長)

京兼 純 (明石工業高等専門学校校長)

金田 昭 (財団法人鳥取県産業振興機構理事長)

森脇 孝 (米子工業高等専門学校振興協力会会長)

杵築 邦昌 (トヨタ自動車株式会社 製品企画本部 PAZ 主査)

増田 孝二 (米子工業高等専門学校後援会会長)

【米子工業高等専門学校】

齊藤 正美 校長

大塚 茂 校長補佐 (企画)

香川 律 校長補佐 (国際交流)

森田 典幸 校長補佐 (学生)

河野 清尊 校長補佐 (寮務)

稲田 祐二 校長補佐 (専攻科)

新田 陽一 地域共同テクノセンター長

大山 正人 事務部長

余村 豊 総務課長

古杉 俊輔 学生課長

4. テーマ

○平成24年度自己点検・評価報告書について

○地域貢献・産学連携について

5. 校長挨拶

開会にあたり校長から、出席していただいた委員の方への感謝の言葉があり、米子高専は来年度50周年を迎えると同時に高専機構の第3期中期計画に基づいた本校の取組を策定し実施するよう大切な年で、近い将来だけでなく、遠い将来も見据えた準備を行っており、それについてこれから報告するので忌憚のないご指導、ご意見を賜りたい旨の挨拶があった。

(出典 平成25年12月9日 評議員会議事録)

資料 11-2-②-1 評議員会議事録（つづき）

6. 議長選出

事務部長（司会）から、評議員会の会長を委員の互選によって選出し、会長が議長を務めることとなる旨説明があり、ここ数年、鳥取大学工学部長に会長として議事の進行をお願いしている経緯を踏まえて、今年も鳥取大学工学部長の河田先生に会長をお願いしたい旨提案があり、異議なしで河田先生を会長に選出した。

7. 議事

(1) 平成24年度自己点検・評価報告書について

大塚校長補佐（企画）から、平成24年度自己点検・評価の紹介及び平成25年度の継続の部分について、細田企画主事補から説明する旨の説明があり、続けて、細田企画主事補から、パワーポイントの資料に基づき、教育に関する事項、研究に関する事項、社会との連携・国際交流及び管理運営に関する事項について説明があった。

【質疑応答】

- ・米子高専における第3期中期計画・中期目標の重点課題・重点目標について
- ・学生の英語力について
- ・入試での高倍率について
- ・女子学生について
- ・インターンシップについて（留学生のインターンシップ受け入れについて）
- ・国際交流について
- ・学生の活躍について
- ・卒業生ネットワークについて
- ・県教委との連携について
- ・学生募集活動について 等

(2) 地域貢献・産学連携について

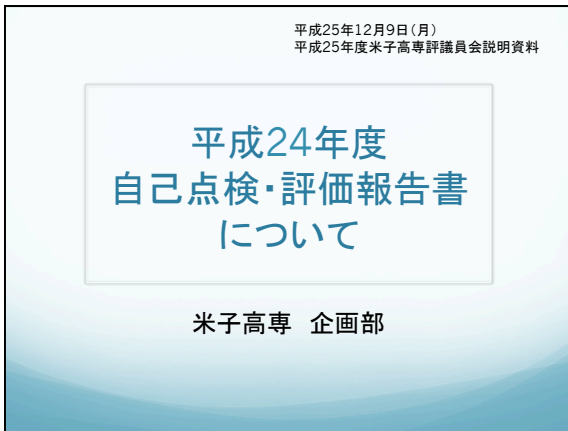
新田地域共同テクノセンター長から、パワーポイント及び配布資料により、地域共同テクノセンター及び米子高専振興協力を通した米子高専の地域連携・地域貢献について説明があった。

【質疑応答】

- ・共同研究、受託研究、寄付金の区別について
- ・鳥取県の戦略的雇用創造プロジェクトについて
- ・産学連携コーディネータの活用について
- ・科研費の採択率について 等

（出典 平成25年12月9日 評議員会議事録）

資料 11-2-②-2 評議員会資料 自己点検・評価報告資料



報告書1/11頁

1. 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

① 積極的な広報活動の展開

- 鳥取県は15歳人口が全国でもっとも少なく、入学志願者数の持続的確保が最重点課題である。
- 女子入学生増の課題については、平成24年度に「JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」事業を実施した結果、物質工学科と建築学科は今年度入試で50%以上の女子学生が入学した。
 - 平成24年度女子入学者 47人/208人
 - 平成25年度女子入学者 61人/205人
- 入試広報と学校広報との情報一元化・効率化：**広報室の設置**を図る。
 - 平成24年度入試倍率 2.21倍
 - 平成25年度入試倍率 2.29倍



報告書1/11頁

(1) 入学者の確保

② 入試説明会、オープンキャンパス等を充実させ、志願者確保に向けた取り組みを推進

- メディア活用による**広報活動**や年2回の**オープンキャンパス**を実施した(8月、11月実施)。参加者が約100名増加した。
 - 平成24年度の参加者実績 1回目延べ828人、2回目116人
 - 平成25年度 " 1回目延べ837人、2回目99人

③ 中学生やその保護者を対象とする広報資料を充実する。

- 中学生向けパンフを刷新して高専の魅力充実を図った。
- 平成25年度の**新入学生アンケート**でも高く評価された。
- 専攻科・JABEEに関する**H.P.の刷新・新設**を9月に実施し、広く内外に情報発信出来るよう基盤を整備した。



(出典 平成 25 年 12 月 9 日 評議員会資料)

資料 11-2-②-2 評議員会資料 自己点検・評価報告資料

報告書2/11頁

(2)教育課程の編成等

① 専攻科の整備・充実

- 昨年度の評議員会での外部有識者からの意見を踏まえ、JABEE委員会を中心に、平成26年度に中間審査を控えたJABEE複合システムデザイン工学プログラムについて、教育目標や専攻科カリキュラムの検討を行い、改善案を作成した。(4~2月実施済)
- 平成25年9月に大学評価・学位授与機構から承認された。

③ グローバル人材として必要とされる英語力の伸長

- 平成24年度より本科3年生全員にTOEIC受験を義務付けた。(2月実施、平成25年度以降も継続)
- 25年3月末までにここ3年間の専攻科1学年のTOEICスコアの一覧表を作成、専攻科生の英語力について把握した。(平成25年度以降も継続)

報告書3/11頁

(3)すぐれた教員の確保

② 人事交流制度の活用

- 各学科・科目に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼し、各学科・科目から提出された資料をもとに、運営会議で受入と派遣計画を策定した。その結果、H25年度に教員1名の派遣と2名の受入が決定した。(10月実施済、継続)

④ 女性教員の比率向上を図る

- 一般科目(数学)、電気情報工学科、電子制御工学科、建築学科の教員募集要項に女性教員を積極的に募集していること記載した。(6~1月実施済、継続)
- 平成24年4月に一般科目物理に女性教員を採用した。

女性教員は8名/78名中

報告書3/11頁

(3)すぐれた教員の確保

⑤ ファカルティ・ディベロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する

- 採用3年(平成26年度以降は2年)以内の若手教員の授業力向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を前期後期各1回実施した。(6~1月実施済、継続)
- 採用3年以内の若手教員の居室として合同教員室を配置。

⑥ 教育活動や生活指導の活性化を奨励する。

- 教育研究活動および学生指導において優れた成果を上げた教員に対し教育研究活性化経費を配分した。(6月実施済、継続)
- 公開講座、出前講座、ジョイント講座などにも活性化経費を配分し、教員のモチベーションアップにつなげている。

報告書4/11頁

(4)教育の質の向上及び改善

① 創造的・実践的技術者の育成を目的としたエンジニアリングデザイン教育を推進する。

- 県人材育成事業と連携して企業人を活用した教育プログラムを実施した。(7~12月、継続)

⑥ 地域産業界との連携による共同教育体制を検討し充実を図る。

- コーディネータを通じて振興協会会員企業を中心とした地元企業に受入を打診し、キャリア支援室及び4年担任・関係各所と打ち合わせを行い、インターンシップ先として学生に提示し、4年生ほぼ全員が参加、体験をした。(継続)
- 低学年の学生に向けたキャリア教育の一環として、オープンファクトリーを実施した。(継続)

報告書5/11頁

(4)教育の質の向上及び改善

⑨ e-ラーニングの取り組みを充実させる。

- 一般科目 e-ラーニングは、CALL教室設置でより充実したものになった。(12月設置)
- 校内全域無線LAN化へ対応するため、仮想サーバの構築を行った。
 - 情報ネットワーク機器の更新および認証サーバの導入に合わせ、校内システムおよび運用の見直しを行った。各種サーバには認証サーバを用いた個人認証を導入し、学生と教職員のネットワークを分離するなどのセキュリティ対策を行った。(4.管理運営に関する事項より)
 - 学生の成績や個人情報入力などのためには一部有線LANを残すなど、セキュリティ対策の強化もはかっている。

(出典 平成 25 年 12 月 9 日 評議員会資料)

資料 11-2-②-2 評議員会資料 自己点検・評価報告資料

報告書6/11頁

(5) 学生支援・生活支援等

② 図書館の充実や寄宿舎の改修整備

- 平成25年度事業として図書館耐震改修が採択された。
 - 平成26年3月に全面リニューアルオープン
- 寮の各居室へ冷暖房エアコンを設置した(平成25年度運用開始)
- 男子寮の不法侵入防止対策として、玄関扉への電気錠の設置および廊下等の照明の人感センサ化工事を実施した。(3月実施)
- 平成25年度には、はじめて女子留学生(ベトナム、マレーシアから、計2名)の受け入れを行い、インターネット接続等の整備を行った。(3月実施予定)

女子寮生増加に対する抜本的な対策は平成25年度に検討する。

報告書6/11頁

(5) 学生支援・生活支援等

各種大会の開催

- 平成24年度: **全国高専体育大会**および**中国地区高専ロボコン大会**を主管校として開催
- 平成25年度: **全国高専デザコン**、**全国高専将棋大会**を開催

報告書7/11頁

2. 研究に関する事項

② 共同研究、受託研究への取り組みを促進

- 境港市との**包括連携協定**に向けて協議・調整を行った。(1~2月実施済、協定締結はH25年度)

日本海新聞 平成25年 5月29日(水)25面

報告書8/11頁

3. 社会との連携、国際交流

④ 公開講座の満足度調査、内容の充実

- 公開講座・出前講座・ジョイント講座等のアンケート調査を随時実施したところ、**平均96%の満足度**が得られた。(前期実績) 実施状況は教員会議(4月・10月)で報告し、内容の改善に役立てた。→活性化経費の配分

日本海新聞 平成25年 11月3日(日) 15面

報告書9/11頁

3. 社会との連携、国際交流

⑤ 卒業生の動向を把握、ネットワーク作り

- 米子高専**卒業生ネットワーク(Ynct-net)ITポータル・サイト**の企画・設計・立上(平成25年3月)
- 米子高専同窓会組織の見直し(会則改正・支部設立)及び米子高専**首都圏同窓会**との連携強化の推進
- 平成25年10月12日 **関西支部の設立**
- 平成25年11月23日 **中部支部の設立**

(出典 平成25年12月9日 評議員会資料)

資料 11-2-②-2 評議員会資料 自己点検・評価報告資料

報告書9/11頁

3. 社会との連携、国際交流

⑥ 学生の国際交流体験や教員の国際交流を促進。外国の大学等の教育研究機関との国際交流事業の協定締結を推進する。

- 国際交流協定締結、海外工場見学旅行、海外研修旅行等の実現に向けた南ソウル大学校学校交流(24年4/28-5/4韓国)
- 南ソウル大学校学生・教員との学校交流(24年6/28-29及び25年7/1日本)を図り、国際交流協定を締結(H25/3/20付)した。



報告書10/11頁

4. 管理運営に関する事項

②各種危機管理体制の点検・整備を行う。

- 津波を想定した避難訓練を実施した(平成24-25年度、継続)。
- 島根原発事故を想定した検討を開始した。
 - 平成25年度:避難場所として鳥取環境大学との検討も進めている



(出典 平成 25 年 12 月 9 日 評議員会資料)

資料 11-2-②-3

平成25年度米子工業高等専門学校評議員会議事要旨 詳細コメント編 (抜粋)

日 時 平成25年12月9日(月) 14:00～16:00
 場 所 米子全日空ホテル 2F 琥珀鳥の間
 出席者 委員: 河田 京兼 金田 森脇 杵築 増田
 本 校: 校長 校長補佐(企画) 校長補佐(国際交流) 校長補佐(学生) 校長補佐(寮務)
 校長補佐(専攻科) 地域共同テクノセンター長 企画主事補 事務部長 総務課
 長 学生課長 総務課課長補佐(総務担当) 総務課総務係長 総務課総務係職員
 (欠席) 校長補佐(教務)

- I. 開 会
 II. 校長挨拶
 III. 議長選出
 IV. 議 事
 1 平成24年度自己点検・評価報告書について
 2 地域貢献・産学連携について
 3 その他
 v. 閉 会
 (○印:各委員、●印:本校)

○ では、口火を切って私のほうから二、三質問させていただきます。

まず、第3期中期計画、中期目標に当たって高専機構本部のほうから米子高専の重点課題、重点目標を何にするんですかという問い合わせが来てると思うんですが、もし、どういう形でこれから、来年度50周年というお話も聞いておりますので、二、三、米子としてはこれを重点課題として持つていくということ、それが第1点目。

第2点目は、高専生は英語力が弱い、私のほうの学校もそうなんですが、昔から企業の方から言われてまして、それで英語力の向上でTOEICのやってますね、3年生の。その平均点がもしわかれば教えていただきたいということ、それから、3点目は入試でかなり倍率が、かなり中学生が減ってるにもかかわらず健闘して積極的に頑張られてると。そのもし理由がわかればお願いしたいと思います。その3点、とりあえず。

(中略)

○ ありがとうございます。

それからもう1点ですが、国際交流の関係で国際交流をどうするかという、学生を受け入れるということもあるんですが、実は鳥取県は今年度、タイ、バンコクに事務所をつくりました。それで、今鳥取県がつくってるのはロシアとそれから、先ほどありました韓国、それからバンコクに鳥取県事務所、私どもが、県内企業が支援しようということでタイにも今年度の10月にスタートいたしましたけども、ぜひこのあたりも人材教育の面から学校同士の交流、あるいはいろいろと対外的なことも含めて協力できることがあるんじゃないかなと思ってますので、この辺も含めてぜひ今後検討いただけたらどうかと思いますので。

(後略)

平成25年度 自己点検・評価に係る報告書(教育に関する活動状況の自己点検・評価)

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	主たる 担当部署
<p>① 15歳人口の減少傾向や産業ニーズの動向など地域の事情に合わせて、学科再編の検討を進めることともに、専攻科の整備・充実を行う。</p> <p>② 産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科再編の検討を行う。</p>	<p>・モデルコアカリキュラム導入に向けての検討を続ける。 ・H26年度に中間審査を控えた複合システムデザイン工学プログラムについて、H24年度からH25年度に検討され学内で審議・承認された専攻科カリキュラム改定内容をもって、H25年9月に学部授与機構へ申請し改定の手続きを行う。</p> <p>・卒業、修了生向け及び企業向けアンケート調査の結果を踏まえ、今後の対応策を検討する。 ・昨年度の評議員会での外部有識者からの意見を踏まえ、JABEE委員会を中心に、平成26年度に中間審査を控えた複合システムデザイン工学プログラムについて、継続的に教育目標や専攻科カリキュラムの検討を行う。</p>	<p>・モデルコアカリキュラム導入については、本部から提示された内容と本校のカリキュラムとの整合性について再度確認した。 ・教務関係教員がいくつかのモデルコアカリキュラムについての研修会に参加した。(12月～3月実施済) ・H24年度から学内審議・承認されていた専攻科カリキュラム改定に関する申請手続きについて運営会議にて了承された。(6月済) ・複合システムデザイン工学プログラムを構成する生産システム工学専攻および物質工学専攻のカリキュラム改定の申請を行い学位授与機構の承認が得られた。(9月実施済) ・専攻科カリキュラム改訂に関わる学生への周知のためのガイダンスを次年度当初に実施するべく資料作成・準備作業を行った(3月実施済)。</p>	<p>教務部 専攻科</p>
<p>(2) 教育課程の編成等</p>	<p>・卒業、修了生向け及び企業向けアンケート調査の結果を踏まえ、今後の対応策を検討する。 ・昨年度の評議員会での外部有識者からの意見を踏まえ、JABEE委員会を中心に、平成26年度に中間審査を控えた複合システムデザイン工学プログラムについて、継続的に教育目標や専攻科カリキュラムの検討を行う。</p>	<p>・複合システムデザイン工学プログラムを構成する生産システム工学専攻および物質工学専攻のカリキュラム改定の申請・承認が得られた。また、特別適用専攻科認定申請のため専攻科のカリキュラム改訂(特別研究等)を改定した。(3月実施済) ・カリキュラム改訂に付随した複合システムデザイン工学プログラムについて学習・教育到達目標や科目関連表の改訂を行った。(3月実施済) ・企画部教職員アンケートの結果から、教職員の89%がJABEEEについて意識して教育活動を実施していることを確認した。(2月実施済) ・企画部学生アンケートの結果から、専攻科生の80%以上および本科5学年の80%以上がJABEEEについて認識していることを確認した。(2月実施)</p>	<p>企画部 教務部 専攻科</p>
<p>③ 入学時の基礎学力を把握するための試験を実施するほか、各分野において基礎的な科目について必要知識と技術の修得状況や英語力を把握し、教育課程の改善に役立てるために、学習到達度試験を実施し、試験結果の分析を行う。また、英語については、検定試験等を積極的に活用して、技術者として必要とされる英語力を伸ばす。</p>	<p>・本科3年生を対象として全国高等学校共通の学習到達度試験(数学・物理)を実施する。 (1) 結果に関する情報を教養教育科と専門学科間で共有し、到達度向上策を検討する。 (2) 学習到達度試験対策として本校の数学教室で使用する3年生対象の復習問題集を改訂し、授業で使用する(後期)。 (3) 課題や定期試験、eラーニングを通して、学習到達度試験に対する学生の意識を高める。 ・編・転入学生に対する学習支援として、入学予定者への事前指導と入学後の学習支援を行う。 ・3年生におけるTOEIC全員受験を実施するとともに、CALL教室の積極的活用を通して語学教育の充実を図る。 (1) 1～3年生に英単語コンテストを実施し語彙力の増強を図る。 (2) 年度末にTOEIC400点以上の学生を調査し、学外向け広報紙(産名通信)に公開する。 (3) 本年度末までに専攻科1学年のTOEICスコアの一覧表を作成し、専攻科生の英語力について各年度推移をデータベース化する。</p>	<p>・全国共通の学習到達度試験を実施した。(1月実施済)また、CALL教室の積極的活用等を通して語学教育の充実を図った。 ・本科3年生に対し、TOEIC受験を補講期間に実施した。(2月実施済) ・専攻科1学年のTOEICスコアの一覧表を作成し、データベースに追加した。(3月実施済) ・科目関連表「専攻科の英語教育について」を実施し意見交換した。(10月実施済) ・1～3年生に語学学習用テキストを用いて、学年ごとに学習到達度を定め、授業ごとに確認テストを行うことで英語学習の増強を図った。英単語コンテストを実施し、学習成果の確認を行った。 ・後期に学習到達度試験の模試を実施し、その結果の分析を行った。 ・学習到達度試験対策として、本校数学科で作成した3年生対象の復習問題集を改訂した。後期から、授業で使用した。 ・課題や定期試験、eラーニングを通して、学習到達度試験に対する学生の意識を高めた。 ・編・転入学生に対する学習支援として、入学予定者への事前指導と入学後の学習支援を行った。 ・評議員会の指摘も受け、TOEICスコアアップを目指したTOEIC受験対策に関する英語講座等の学習支援実施を来年度に構築して行く。 ・学習到達度試験の分析結果や原簿留置学生数等を考慮し、1～3年生の低学年に向けた学習支援実施の重点化を図るべく検討する。</p>	<p>教務部 専攻科 キャリア支援室 教養教育科</p>

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	主たる 担当部署
<p>⑥ 安全面への十分な配慮を払いつつ、学生の国際交流体験や教員の国際交流を促進するための施策を検討する。</p> <p>③ 社会との連携、国際交流等に関する事項</p>	<p>・学校の国際化やグローバル人材教育の推進のため、以下のことを実施する。</p> <p>(1)国際交流協定に基づく交流プログラムの企画・試行</p> <p>(2)地元自治体が行う国際交流プログラムの企画</p> <p>(3)本学・高専連携による国際交流プログラムの企画</p> <p>(4)JICEなど国際協力・連携組織が行う国際交流プログラムの企画</p> <p>(5)海外の大学等との協定締結</p> <p>・英語、ドイツ語、中国語、韓国語の科目を選択した学生の授業アンケートの検討を始める。</p> <p>・第2外国語としてのドイツ語の扱いについて検討する。</p> <p>・本科学生の海外研修旅行実施について検討する。</p> <p>・鳥取県、ハーマント州(米国)青少年交流事業の一環として訪日する米国高校生を受け入れ、専攻科生とともに学校交流プログラムを実施する(4月)。</p> <p>・海外インターンシップについて、その実現可能性の検討を行う。</p>	<p>・学校の国際化やグローバル人材教育の推進のため、(1)鳥取大学等との連携で、「海洋漂着ゴミ回収を通して日韓の環境問題を考える」(南ソウル大学校)研修における研修プログラムの企画・実施及び学校交流を実施した。(6月)</p> <p>(1)-2JASSO海外留学支援制度(短期派遣・短期受入れ)申請を行ったが不採択であった。(11月)</p> <p>(1)-3交流協定に基づき教員2名、職員2名の派遣を実施した。津山高専から2名、舞鶴高専から2名の教職員を随行した。(3月)</p> <p>(2)-1鳥取県との連携で、鳥取県・ハーマント州(米国)青少年交流事業に伴う米国高校生と学校交流を実施した。(4月)</p> <p>(2)-2境港市との連携で、ウラジオストク国際青少年フェスティバル(ウラジオストク市)に専攻科生を派遣した。(6月)</p> <p>(3)-1鳥取大学等との連携で、「海洋漂着ゴミ回収を通して日韓の環境問題を考える」(南ソウル大学校)研修における研修プログラムの企画・実施及び学校交流を実施した。(6月)</p> <p>(3)-2留学生交流プログラム(中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアム)に留学生・日本人学生を派遣した。(10月)</p> <p>(3)-3合同研究発表会 in Manila(中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアム)に学生を派遣した。(11月)</p> <p>(3)-4高専生のための英語キャンプ2013 in Singaporeに学生を派遣した。(8月)</p> <p>(3)-5STS2013(国立高専機構)に専攻科生を派遣した。(11月)</p> <p>(4)アジアサイエンスキャンプ2013(JST)に女子留学生が参加し、最高表彰を受賞した。(8月)</p> <p>(5)マレーシア工科大学へ在外研究員を派遣し、主に東南アジアの大学との協定締結を模索する。(9月)</p> <p>・本科4年(3月)に一斉開講しているドイツ語(週当たり3時間)は、平成26年度入学生から選択科目として週当たり2時間とし、中国語、韓国語などを含めた選択科目の一つとした。残りの1時間分は特色ある英語の選択授業として5科目を閉講することとし、平成26年度入学生からこのカリキュラムを適用することにした。(9月実施済)</p> <p>・国際交流講演として、ロシア人通訳による「ロシアと私のロシア」と題した講演を本科4年生に押し実施した。講演の中では簡単なロシア語の基礎についても学習した。(2月実施済)</p> <p>・海外研修旅行は、全員参加型とせず任意参加として、国際交流担当を中心に検討中である。そのため教務担当教員を韓国に派遣した。(3月実施済)</p> <p>・海外インターンシップの有効性について検討し、実現に向けて検討を継続する。(10月実施済)</p> <p>※平成25年度評議員会での指摘事項をふまえ、TOEICに関する活動内容の取組をより詳細なものとしている。</p>	<p>国際交流 教務部 専攻科 各学科</p>

運営会議議事要旨（案）

- 1 日時 平成24年7月4日（水） 9:30～11:20
- 2 出席者 校長，副校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，特任主事
地域共同テクノセンター長，事務部長，総務課長，学生課長

3 議事要旨

【審議事項】

(1) 広報の一元化について

校長から，継続審議となっている学校業務について，今回は広報について意見交換を行いたい旨説明があり，副校長から，資料1（広報の一元化について）に基づき，広報委員会の組織改正について提案があった。

審議の結果，効率化を考慮して，入試広報は現行のとおり広報委員会から切り離し入試委員会の管轄とすることとなった。また，その他の広報の業務も実際には担当する部署で分散して行うほうが効率がいいので，今後は，分散型での実施を前提に，分散型をいかにコントロール（統合）するかを継続して審議することとなった。

(2) 将来構想検討委員会からの答申について

校長から，資料2（平成24年度第2回将来構想検討委員会議事要旨）に基づき，国際性の涵養のために，学生の海外派遣として韓国への研修旅行を実施したい旨提案があり，検討した結果，今後，国際交流的な形ではなく，あくまで研修旅行という形で実施する方向で具体的に検討を進めることとなり，次回の運営会議では，県内の高校及び他高専の状況，費用等について情報を収集し検討材料として報告することとなった。

(3) 創立50周年事業について

校長から，寄付金の目標額を1,500万円と考えており，来年4月から寄付金を集め始めるのでそれに向けて準備を始める旨報告があった。また，創立50周年事業の実施に向けて，必要に応じて個々の事業で実行委員会を立ち上げたい旨提案があり，次回以降の運営会議で具体的な案を出すこととなった。

(4) 米子工業高等専門学校教育懇談会申合せ（案）について

学生課長から，資料3（米子工業高等専門学校教育懇談会申合せ（案））に基づき，昨年度から実施している教育懇談会について，今後の定期的な開催に備えて資料のとおり申合せを作成しておきたい旨提案があった。審議の結果，外部評価（評議員会）との関係について意見があり，外部評価とは無関係で，教務主事の管轄で実施することが確認され，認められた。

【報告事項】

(1) 教職員の給与の臨時減額支給措置について

事務部長から，資料4（教職員の給与の臨時減額支給措置について）に基づき，機構から通知のあった教職員の給与の臨時減額支給措置について説明があった。

(2) 高専・両技科大間教員交流について

校長から，他高専との教員交流について，現時点の候補者について口頭により報告があった。

（出典 平成24年7月4日 運営会議議事録）

資料 11-2-③-2 運営会議議事録

運営会議議事要旨（案）

- 1 日時 平成25年 1月 9日（水） 9:30～11:15
- 2 出席者 校長, 副校長, 教務主事, 学生主事, 寮務主事, 専攻科長, 特任主事
地域共同テクノセンター長, 事務部長, 総務課長, 学生課長

3 議事要旨

【審議事項】

(5) 平成25年度学内組織について

校長から、資料5（平成25年度組織図（案）等）に基づき、学内組織の見直しと改善案として、「校長補佐（運営会議の体制）の見直し」、「広報室の新設」及び「キャリア支援室のあり方」、また、検討課題として「担任制度のあり方」及び「情報セキュリティ組織の見直し」を考えている旨説明があり、次回の運営会議で最終的な組織案を示すために意見聴取したい旨提案があり、以下のような話し合いがなされた。

- ・校長補佐については、副校長の業務過多を是正するための業務見直しに伴う副校長制度の廃止による改善で、改正後は現在の副校長の業務を6名の校長補佐が分担し対応することとなる。（業務分担は次回の運営会議で決める）ただし、教員の人事的な業務は校長が担当する。また、校長補佐「企画、国際交流」の名称については、代表的な職務内容を示したもので、今後ふさわしい名前があれば変更する可能性がある。

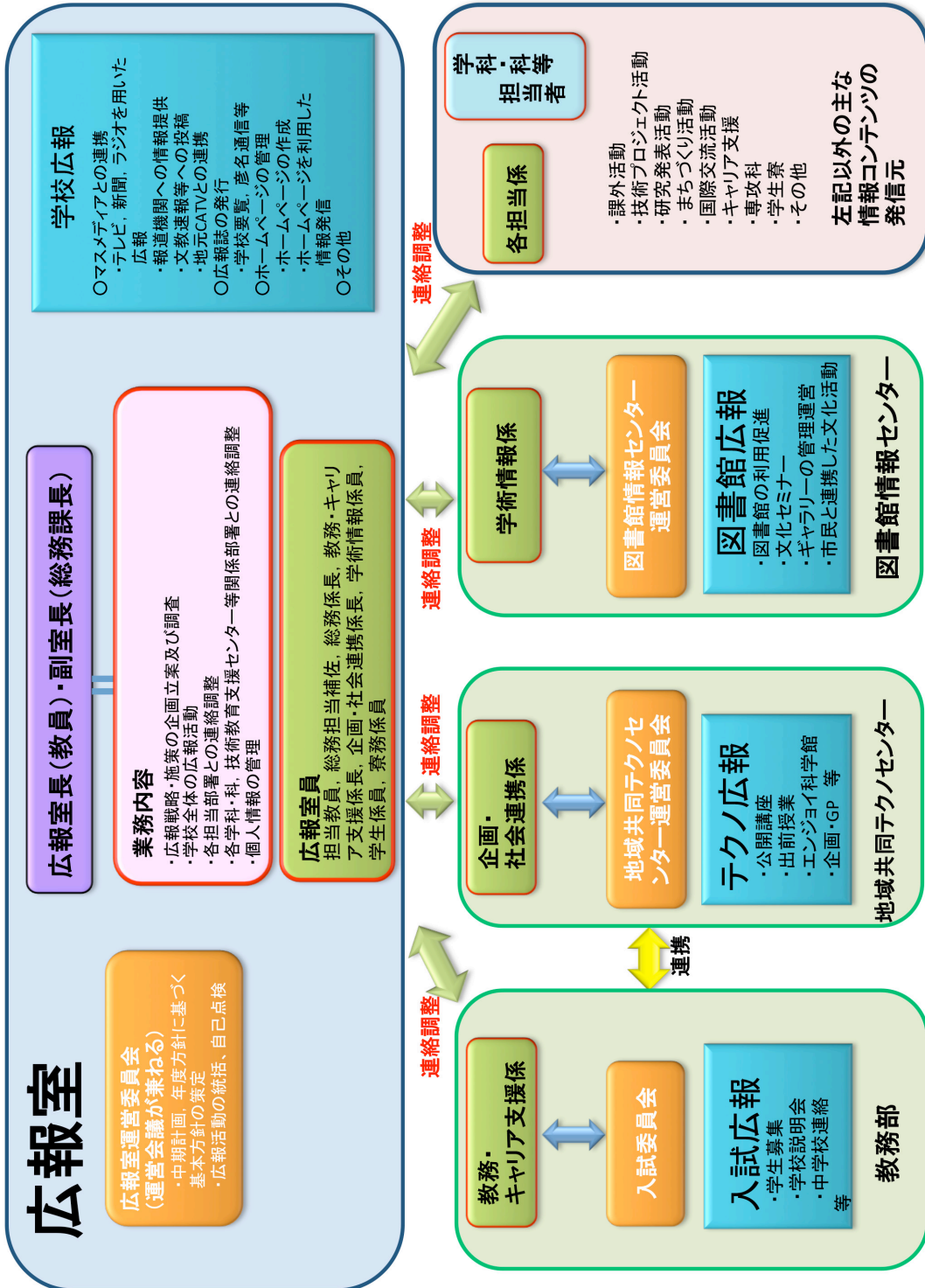
- ・広報室については、校長直轄の組織という体制で設置することから、これまでの案で使っていた「広報センター」という名称を「広報室」と改め、他の「室」と同様の並びとした。
また、組織と運営体制については、資料に基づき、運営委員会の運営方法及び広報室員について説明があった。なお、広報室員に彦名通信担当の教員を加えるべきという提案があった。

- ・キャリア支援室のあり方については、業務内容の整理及び担任業務との関わりを精査する必要があり、組織的に大きく見直したい旨説明があった。なお、学生主事から、キャリア支援室が所掌する業務には学生部と連携することが必要な業務があると認識しているので教務部の下ではなく、学生部も関わるような組織図にしてほしい旨要望があった。

- ・担任制度のあり方については、担任業務の内容及び今年度から実施した校長指名による学年主任制度を含めて今後さらに検討することとなった。

- ・情報セキュリティ組織の見直しについては、規則の整備を含めて今後さらに検討することとなった。

米子高専の広報業務の組織と運営体制



(出典 平成 25 年 1 月 9 日 運営会議資料)

運営会議議事要旨 (案)

- 1 日時 平成25年 1月16日(水) 9:30~11:10
- 2 出席者 校長, 副校長, 教務主事, 学生主事, 寮務主事, 専攻科長, 特任主事
地域共同テクノセンター長, 事務部長, 総務課長, 学生課長
- 3 議事要旨

【審議事項】

(1) 平成25年度学内組織について

校長から、資料1(平成25年度組織図(案)等)に基づき、前回の運営会議での意見交換を踏まえて修正した組織図(案)及び広報業務の組織と運営体制(案)について説明があり認められた。また、広報業務について、彦名通信に関する業務は広報室で担当し発行することとし、学科等からの担当者の選出は今までどおりの体制で考えている旨報告があった。

なお、キャリア支援の在り方については、今後さらに検討を進めたい旨連絡があった。

(2) 平成25年度非常勤講師時間数(案)について

教務主事から、資料2(平成25年度非常勤講師時間数等調)に基づき、来年度の非常勤講師時間数の増減について学科及び教科毎に説明があり、審議の結果承認された。

(3) 平成25年度会議予定日(案)について

総務課長から、資料3(平成25年度会議予定日(案))に基づき、平成25年度の会議予定日について提案があり、教務主事から定期試験の監督者の割り振りの問題で試験時間割を組むことが難しくなっているため定期試験の日を優先して会議日を設定してほしい旨要望があったが、審議の結果、会議を優先するほうが望ましいという判断で原案どおり承認された。

(4) 「学校・警察連絡制度」に関する協定について

学生主事及び学生課長から、資料4(「学校・警察連絡制度」に関する協定書(案)等)に基づき、鳥取県警察から要請があった連絡制度の協定締結について、資料により説明があり、審議の結果、来週中に県警を訪問し高専の立場を説明して理解を求めて、変更が必要と思われる箇所について変更を要望してみることとなった。

また、この協定締結について機構本部に確認しておくこととなった。

【報告事項】

(1) 平成25年度校務分掌について

校長から、資料5(平成25年度校務分掌決定手順等)に基づき、校務分掌の内示があった。また、副校長業務の分担については、資料のとおり案が示されたが、今後相談しながら決める旨報告があった。

(2) 平成25年度入学者選抜検査(推薦による選抜)出願状況について

教務主事から、資料6(平成25年度入学者選抜検査【推薦による選抜】出願状況)に基づき、出願状況について報告があった。また、昨年度との比較について併せて報告があった。

(3) 国立高等専門学校入学者選抜実施要項の一部改正について

教務主事から、資料7(国立高等専門学校入学者選抜実施要項の一部改正について(通

運営会議議事要旨 (案)

- 1 日時 平成25年 3月 6日 (水) 9:30~10:25
- 2 出席者 校長, 副校長, 教務主事, 学生主事, 寮務主事, 専攻科長, 特任主事
地域共同テクノセンター長, 事務部長, 総務課長, 学生課長

3 議事要旨

【審議事項】

- (1) 平成26年度概算要求事項(施設整備)(案)について
総務課長から、資料1(平成26年度概算要求事項(施設整備)(案))に基づき、前回の運営会議で承認を得ていた概算要求事項の順位について、香川高専施設課の指導により見直しを行い、新たに順を付した旨説明があった。また、要求額についても、香川高専施設課の指導により1億円程度に見直すように修正する旨説明があり、審議の結果承認された。なお、見直しにより要求事項から外れた「屋外運動場・プール改修」については、引き続き整備の必要性を要望していくこととなった。
- (2) 平成24年度年度計画実施・達成状況報告について
副校長から、席上配布資料(米子高専平成24年度年度計画(新フォーマット))について、次回の運営会議で審議し確定したいので、各自確認しておくよう依頼があった。
- (3) 学生の個人情報に関わるセキュリティに関するガイドラインについて
副校長から、資料2(学生の個人情報に関わるセキュリティに関するガイドライン)に基づき、情報セキュリティ委員会から上申されたガイドラインについて説明があり、審議の結果、字句の訂正のうえ承認された。なお、教職員へは3月の学科長会議及び3月末に研修会を開催し周知する旨報告があった。
- (4) 平成25年度変形労働時間制カレンダー(案)について
総務課長から、資料3(平成25年度変形労働時間制カレンダー(案))に基づき、過半数代表からの要望により、事務系職員のカレンダーも7月6日・7日の中国地区高専体育大会を出勤日とし、7月8日を休業日と変更し、教員と同じ変形労働時間制カレンダーとしたい旨提案があり、審議の結果承認された。
- (5) 米子工業高等専門学校学則等の一部改正について
学生課長から、資料4(米子工業高等専門学校学則新旧対照表(案)等)に基づき、学則、学生心得、高専以外の教育施設等における学修等に関する規則及び特別欠席・欠席取扱要項の改正について説明があり、審議の結果承認された。
- (6) 米子工業高等専門学校評議員会規則の一部改正について
総務課長から、資料5(米子工業高等専門学校評議員会規則新旧対照表(案))に基づき、評議員会はその時々課題となるテーマで開催することから、評議員の任期を設けず、開催のテーマにより適任者を人選し委員として招へいするように規則を改正したい旨提案があり、審議の結果認められた。
- (7) 米子工業高等専門学校広報室規則(案)について
総務課長から、資料6(米子工業高等専門学校広報室規則(案))に基づき、平成25年度から新設される広報室に関する規則を制定したい旨提案があり、審議の結果、字句の訂正・追加のうえ承認された。

(出典 平成25年3月6日 運営会議議事録)

運営会議議事要旨 (案)

- 1 日時 平成25年4月17日(水) 9:30~11:35
- 2 出席者 校長, 校長補佐(企画), 校長補佐(国際交流), 校長補佐(教務), 校長補佐(学生), 校長補佐(寮務), 校長補佐(専攻科), 地域共同テクノセンター長, 事務部長, 総務課長, 学生課長

3 議事要旨

【審議事項】

- (1) 平成25年度年度計画について
校長から, 資料1(米子工業高等専門学校年度計画(平成25年度))に基づき, 平成25年度の年度計画について説明があり, 審議の結果認められ, この後機構本部へ提出することとなった。
- (2) H26年度認証評価・JABEE中間審査に関わるスケジュールと協力のお願い
校長補佐(企画)から, 資料2(H26年度認証評価・JABEE中間審査に関わるスケジュールと御協力のお願い等)に基づき, 平成26年度に受審予定の機関別認証評価及び複合システムデザイン工学プログラムのJABEE中間審査についてスケジュールの説明及び資料作成等の協力依頼があり, 審議の結果認められ, 資料のとおり進めることとなった。
- (3) 平成25年度教育研究設備維持運営費の配分について
総務課長から, 資料3(平成25年度教育研究設備維持運営費の配分について)に基づき, 緊急の修理を要する物質工学科の核磁気共鳴装置の修理について予算を配分したい旨提案があり, 審議の結果認められた。
- (4) 広報室の運営等について
広報室長から, 資料4(「広報室」提出資料)に基づき, 広報室の運営委員会は運営会議が兼ねることとなっていることから, 今年度から設置された広報室の運営に関して所掌業務・運営方針及び広報戦略等について提案があり, 審議の結果承認され, 個々の課題については以下のとおり対応することとなった。
- ・知的セミナーの実施者に対するインセンティブの付与について
地域貢献に準じたポイント制を導入し校長裁量経費の配分の対象とすることとなった。
 - ・中海テレビセンタービルの利活用について
コストパフォーマンスだけでなく地域貢献等のいろいろな意味を含めて契約していることから, 積極的な有効利用の促進を学内に依頼することとなった。
 - ・物理的な「広報室」の設置について
各部署で発行している広報に関する資料等を収集・活用するための部屋の確保について, 平成25年度は図書館改修のため困難なことから, 平成26年度からの確保を目指すこととなった。
- (5) 第20回全国高等専門学校将棋大会実施体制について
将棋同好会指導教員(松本至先生)から, 資料5(第20回全国高等専門学校将棋大会実施体制)に基づき, 平成25年8月21日~23日まで本校運営で開催する全国高専将棋大会の実施体制について説明があり, 審議の結果認められた。

学科長会議議事概要

- 1 日時 平成25年 4月17日(水) 16:25~17:20
- 2 場所 小会議室
- 3 出席者 校長, 校長補佐(企画), 校長補佐(国際交流), 校長補佐(教務)・(技術教育支援センター長), 校長補佐(学生), 校長補佐(寮務), 校長補佐(専攻科), 地域共同テクノセンター長, キャリア支援室長, 機械工学科長, 電気情報工学科長, 電子制御工学科長, 物質工学科長, 建築学科長, 教養教育科長, 事務部長, 総務課長, 学生課長, 技術長
- 4 欠席者 図書館情報センター長(代理出席: 奥雲副センター長)
- 5 議事概要

(1) 平成25年度年度計画について

校長から, 資料1(米子工業高等専門学校年度計画(平成25年度))に基づき, 平成25年度の年度計画を資料のとおり纏めた旨報告があった。

(2) H26年度認証評価・JABEE 中間審査に関わるスケジュールと協力をお願い

校長補佐(企画)から, 資料2(H26年度認証評価・JABEE 中間審査に関わるスケジュールと御協力をお願い等)に基づき, 平成26年度に受審予定の機関別認証評価及び複合システムデザイン工学プログラムの JABEE 中間審査についてスケジュールの説明及び資料作成等の協力依頼があった。

(3) 米国バーモント州高校生との学校交流について

校長補佐(国際交流)から, 資料3(平成25年度鳥取県・バーモント州青少年交流事業米子高専担当実施要項(案))に基づき, 鳥取県・バーモント州青少年交流事業により平成25年4月26日(金)に受け入れるバーモント州の高校生等との学校交流のスケジュール及び内容について連絡があった。

(4) 科学研究費申請・採択状況について

地域共同テクノセンター長から, 資料4(科学研究費申請・採択状況)に基づき, 教員の科学研究費申請・採択状況及び技術職員の科研費(奨励)申請・採択状況について報告があった。なお, 今年度は, 教員の科研費の新規採択件数が0件という非常に危機的な状況となったことから, 科研費獲得に向けた対策について説明があった。

(5) 平成24・25年度外部資金等受入状況について

地域共同テクノセンター長から, 資料5(平成24年度 外部資金等受入状況について等)に基づき, 「平成24年度の共同研究, 受託研究等, 寄付金及び受託事業費の実績」等の報告と「平成25年度の外部資金等受入状況」及び「金額および件数の推移について」について報告があった。

(6) 広報室の運営等について

広報室長から, 資料6(「広報室」提出資料)に基づき, 今年度から設置された広報室の所掌業務・運営方針及び広報戦略等について報告があった。

また, 各学科・科長に対して, 彦名通信の編集及び各学科・科等との連絡調整役を務める「広報連絡委員」の選出について依頼があった。

(出典 平成25年4月17日 学科長会議議事録)

学科長会議
25.4.17

資料 6

「広報室」提出資料

2013/4/17 広報室長

I 設置目的

①広報の充実、②情報の一元化、③広報業務の効率化

II 所掌業務

1. 学校全体の広報活動

1) 入試広報、テクノセンター広報、図書館広報、総務広報、学生広報、寮広報、各学科・科・専攻科広報など

※従来通り各部署で実施し、必要に応じて広報室が連絡・調整等に当たる。

2) 『彦名通信』編集・発行、ホームページの管理・運営・充実、「米子高専知的セミナー」(県民チャンネル)の実施

※主に『彦名通信』の編集に従事する「広報連絡委員」を各学科・科から選出(依頼)。

『彦名通信』の編集の他に各学科・科等との連絡・調整役を務める。

*『彦名通信』については、その発行目的などを再検討する(特集記事の掲載など内容・配布先の検討)。

※平成25年度は、『彦名通信』の編集を中心とした「広報連絡委員」の会議と、各学科・科等で各部署のHPを担当している教員及び広報室によるHPの検討(管理・運営システム、トップページの改修、コンテンツの拡充など)の会議を持ち、平成26年度に両者の統合&HPの充実を目指す。

*「知的セミナー」については、広報室長名で依頼し、インセンティブの付与を検討する。

3) 新規の広報案件に対する調整・企画、及び各部署との連携・協力・実施

2. 個人情報の管理(許諾)

3. 中海テレビセンタービル(36万円/年)による広報活動

III 運営方針(案)

●各部署が連携し効果的・効率的な広報活動を展開するための連絡・調整機能を発揮する。

*各部署における広報活動状況(平成24年度までの実績)の集約・整理をし、現状把握と課題抽出を行う。

*各部署の担当広報業務の精査を行い、広報活動の割り振り等のガイドラインとする。

*各部署からの広報情報の一元化システムの構築を検討する。

*各部署で発行されている広報誌等を収集・活用するための「広報室」の設置を検討する。

●「広報戦略」(仮称)を策定・整備し、広報施策の企画・立案・調査等を行う。

(出典 平成25年4月17日 学科長会議資料)

IV 広報戦略（案）

1) 高等教育機関としてのアピール

*高専間連携などによる取り組みの推進

2) ステークホルダー（利害関係者）に対する的確な情報発信

（目的・目標の明確化、ニーズ把握）

- ・小学生以下
- ・中学生
- ・中学生保護者
- ・中学校教員
- ・女子学生
- ・在学生
- ・保護者（後援会）
- ・卒業生（同窓会）
- ・教職員
- ・文科省・高専機構
- ・大学・他高専
- ・企業
- ・自治体
- ・地域社会
- ・海外 等

3) HP の拡充（紙媒体やオープンキャンパスなどとの情報の連続性の実現）

4) クオリティとスピードの担保（アウトソーシングも）



5) 外部メディアの活用

（出典 平成 25 年 4 月 17 日 学科長会議資料）

資料 11-2-③-4

「広報」点検部会議事録

平成26年3月20日

報告者	余村豊	検印	検印	検印
開催日時	平成26年3月20日 16:00-17:00			
開催場所	小会議室			
出席者	余村豊、中島美智子			

1. 議題

- 年度計画 フォローアップ(中間進捗状況)実績報告に対する点検。
 年度計画 フォローアップ(年度末実績状況)実績報告に対する点検。

2. 審議内容

- 年度計画の進捗状況報告書について審議した。
 年度計画の実績状況報告書について審議した。
 ・具体的審議事項など(箇条書き):
 ・広報活動の一元化(情報の共有化、積極的な情報発信)について
 ・HPのリニューアルの検討について
 ・その他

3. 審議結果

- 審議の結果、年度計画進捗状況について検討・改定を行った。
 審議の結果、年度計画実績状況について検討・改定を行った。
 ・具体的改定・要望事項など(無ければ特に無しと記載):
 特に無し

4. 現時点の達成状況評価

- 年度計画 フォローアップ(中間進捗状況)達成状況評価。
 年度計画 フォローアップ(年度末実績状況)達成状況評価。
 ・達成状況評価結果:
 計画を上回って達成した。
 達成した。
 達成できなかった。

- ※上記で未達成の場合には、今後の対応策など
 年度末に向けた改善・対策フォローアップなど。
 次年度に向けた改善・対策フォローアップなど。
 ・具体的な改善・対策事項など(箇条書き):

5. その他(補足・特記事項など)

(出典 平成26年3月20日 広報点検部会議事録)

資料 11-2-③-5

件 Re: 点検・評価委員会 (4/2) の開催について
名:

日 2014年4月1日火曜日 11時46分16秒 日本標準時
付:

差 角田英子
出
人:

宛 総務担当補佐, 総務係 角西, 校長補佐 (企画), 校長補佐 (寮務), 校長補佐 (国際交流),
先: 校長補佐 (学生), 校長補佐 (教務), 校長補佐 (専攻科), 地域共同テクノセンター長, 事
務部長

CC: 山口 顕司, 細田 智久

点検・評価委員会メンバー 各位

点検・評価委員長

先に各部署から提出いただきました、平成25年度年度計画実績報告を別紙のとおり取りまとめました。(赤字が未達成項目です。)
明日の点検・評価委員会に先立ち配布させていただきますので、目を通していただき、追加・修正等がありましたら、本日中に総務課 角田(つのだ)まで連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

取りまとめが遅くなり、短時間での確認となり、誠に申し訳ありません。

(2014/03/25 18:27), 総務担当補佐 wrote:
点検・評価委員会メンバー 各位

点検・評価委員長

点検・評価委員会を下記のとおり開催しますのでよろしく
お願いいたします。

記

日 時 平成26年4月2日(水) 運営会議前

場 所 校長室

議 題 1. 平成25年度年度計画実績報告書について

2. 学生・教職員アンケート結果について

3. その他

~~~~~  
米子工業高等専門学校  
総務課補佐(総務担当)  
角 田 英 子

Tel : 0859-24-5004

E-mail : [s-hosa@vonago-k.ac.jp](mailto:s-hosa@vonago-k.ac.jp)

~~~~~

米子工業高等専門学校

高専名:

30

高専番号:

平成25年度実績報告

平成25年度実績報告

1. 教育に関する事項

①国立高専への理解を促進するため、種々の手段により、地域社会への積極的な広報活動を展開する。

- ・学内組織として新たに広報室を設け、情報の一元化を図るとともに、広報業務の一層の充実と効率化を図る。
- ・広報委員を推進し、広報活動の活性化を図る。
- ・女子学生課を新設し、女子学生の広報活動の推進を図る。
- ・地域の中学校・高校や県教育委員会並びに学習塾等との連携を深める。

②入試説明会やオープンキャンパスを充実させ、優れた入志志願者確保に向けた取り組みを推進する。

- ・夏と秋の年2回のオープンキャンパスを開催し、参加者数と入志志願者数との関連性等を分析する。
- ・中学校関係者を招いた入試説明会を実施するとともに、学校単位での訪問見学会も実施する。
- ・入試説明会の他高専との共同開催について検討し、合意が得られた高専との共同開催を試みる。
- ・在校生による出身中学校訪問活動(女子)中学生の理系進路選択支援事業も進むと実施するとともにその効果を調べる。
- ・本科3年生の全体ホームルームや4年生の就職懇談会で学生および保護者に対して専攻科のPRを行う。

③中・高校生やその保護者を対象とする広報資料を充実させる。

- ・広報室を中心として、ホームページや広報資料の内容を充実し、統一した広報戦略を立てる。
- ・校外向けHPのリニューアルの検討を行い、その充実を図り、随時内容を更新する。
- ・新入生アンケートで入試広報資料の有効性を検証し、中学生向けパンフレット等の充実を図る。
- ・専攻科やJABEEEに関するHPを随時刷新するとともに、広く内外に情報発信する。また、学術発表会等の専攻科生の発表などのトピックスを専用掲示板を設置して適宜掲示する。

④アドミッションポリシーにふさわしい人材を的確に選抜できるように入試方法の見直しを行う。

- ・入試選抜方法改善後の入試成績や入試取組の変化を調査したが、大きな変化はなかった。また、学力試験における面接の廃止の影響も見られなかった。
- ・前期中間、前期末、後期中間、学生来試験の成績について、新入生の成績追跡調査を行う。

⑤入学者の学力水準の維持・向上に努めるとともに、本校を第一志望とする入志志願者の増加を図る。

- ・中・高・小連携の中学校を訪問し、高専教育への理解の促進と入志志願者増を図る。
- ・学習塾の広報提供の効果を検討した上で、校外の学習塾情報提供を行う。
- ・県内外の広い地域を対象に、中学校に対してきめ細かな入試説明会を年2回行う。

平成25年度実績報告

①国立高専への理解を促進するため、種々の手段により、地域社会への積極的な広報活動を展開する。

- ・広報室を新設し、広報活動の活性化を図る。
- ・女子学生課を新設し、女子学生の広報活動の推進を図る。
- ・地域の中学校・高校や県教育委員会並びに学習塾等との連携を深める。

②入試説明会やオープンキャンパスを充実させ、優れた入志志願者確保に向けた取り組みを推進した。

- ・新入生の入試説明会を、5月と9～10月の間に最大参加人数であった。また、第2回目のオープンキャンパスも実施した。(8月、11月実施済)
- ・中学校関係者を招いた入試説明会を実施するとともに、学校単位での訪問見学会も実施する。
- ・入試説明会の他高専との共同開催について今後も検討する。
- ・在校生による出身中学校訪問活動(女子)中学生の理系進路選択支援事業も進むと実施するとともにその効果を調べる。
- ・本科3年生の全体ホームルームや4年生の就職懇談会で学生および保護者に対して専攻科のPRを行う。
- ・最近の入志志願者数の動向調査を行い、県外が増加、県内が減少、全体でやや増加であったことがわかった。

③中・高校生やその保護者を対象とする広報資料を充実させた。

- ・広報室を中心として、総務、企画、社会連携、教務、キャリア支援、各学系、学術情報、各係長、係員をメンバーとする広報室打ち合わせを随時開催し、情報の共有化を図るとともに、ホームページや広報資料の内容を充実し、統一した広報戦略を立てる。
- ・校外向けHPのリニューアルの検討を行い、その充実を図り、随時内容を更新する。
- ・新入生アンケートで入試広報資料の有効性を検証し、中学生向けパンフレット等の充実を図る。
- ・専攻科やJABEEEに関するHPを随時刷新するとともに、広く内外に情報発信する。また、学術発表会等の専攻科生の発表などのトピックスを専用掲示板を設置して適宜掲示する。

④アドミッションポリシーにふさわしい人材を的確に選抜できるように入試方法の見直しを行う。

- ・入試選抜方法改善後の入試成績や入試取組の変化を調査したが、大きな変化はなかった。また、学力試験における面接の廃止の影響も見られなかった。
- ・前期中間、前期末、後期中間、学生来試験の成績について、新入生の成績追跡調査を行う。

⑤入学者の学力水準の維持・向上に努めるとともに、本校を第一志望とする入志志願者の増加を図る。

- ・中・高・小連携の中学校を訪問し、高専教育への理解の促進と入志志願者増を図る。
- ・学習塾の広報提供の効果を検討した上で、校外の学習塾情報提供を行う。
- ・県内外の広い地域を対象に、中学校に対してきめ細かな入試説明会を年2回行う。

平成25年度 自己点検・評価に係る報告書

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	主たる 担当部署
<p>I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>① 種々の手段により、積極的な広報活動を展開する。</p> <p>(1) 入学者の確保</p> <p>1. 教育に関する事項</p> <p>② 入試説明会、オープンキャンパス等を充実させ、志願者確保に向けた取り組みを推進する。</p>	<p>・学内組織として新たに広報室を設け、情報の一元化を図るとともに、広報業務の一層の充実と効率化を図る。</p> <p>・広報対象とする地域、団体ごとに有効な広報策を検討し、外部メディアの活用も含む広範な広報活動を実施する。</p> <p>・地域の中学校長会や県教育委員会並びに学習塾等との連携を深める。</p> <p>・夏と秋の年2回のオープンキャンパスを開催し、参加者と入学志願者数との関連性等を分析する。</p> <p>・中学校関係者を招いた入試説明会を実施するとともに、学校単位での訪問見学も受け付ける体制をつくる。</p> <p>・入試説明会の他高専との共同開催について検討し、合意が得られた高専との共同開催を試行する。</p> <p>・在校生による出身中学校訪問活動(女子中学生の理系進路選択支援事業も含む)を実施するとともにその効果を測る。</p> <p>・本科3年生の全体ホームルームや4年生の就職懇談会で学生および保護者に対して専攻科のPRを行う。</p>	<p>・運営会議において、広報の一元化など広報のあり方を検討した結果、広報全般についての活動を行う新たな組織としてH25年度から広報室を設置した。</p> <p>・地元ヶ丘ケーブルテレビ(中海テレビ)「県民チャンネル」で「米子高専・知的セミナー」という番組を放送し、本校教員の各専門分野を中心に多岐にわたる種々の番組を地域社会に情報発信し、還元した。(毎月放送済(インクナハンバーはPRで閲覧可能))</p> <p>・鳥取県内の校長に対する学校説明会及び近隣地区の中学校校長会に参加し、校長から高専の特色などPRを実施した。(5月、6月実施済)</p> <p>・鳥取県内及び鳥取県松江市、安来市の中学生1年生～3年生に学校案内パンフレット(短縮版)をエンジン科学館の案内に同封した。(6月実施済)また、近隣の市町村教育委員会、図書館及び公民館に配布し広報活動に努めた。(3月実施済)</p> <p>・新入生アンケート結果をまとめて、学科長会議で公表し、今後のPR活動他について検証した。(5月実施済)</p> <p>・在校生(特に養生)による出身中学校訪問を従前どおり実施し、出席状況を検証した。(3月実施済)</p> <p>・第1回目のオープンキャンパスを実施した。これまでに最大の参加人数であった。また、第2回目のオープンキャンパスも実施した。(8月、11月実施済)</p> <p>・本校の入試説明会を、5月と9～10月の間に5会場で開催した。</p> <p>・学校単位での訪問見学を受け付ける体制を整えた。</p> <p>・入試説明会の他高専との共同開催について今後も検討する。</p> <p>・在校生が出身中学校を訪問し、女子学生確保のための理系PRを行った。(4件)(8～9月実施済)</p> <p>・本科3年生への専攻科のPRは1月のLHRIにて、4年生へのPRは3月の就職懇談会にて実施した。(1月、3月実施済)</p> <p>・本科4年生、5年進路未定者に対し保護者懇談会において専攻科のPR用パンフレットを配布した。(7月実施済)</p> <p>・改訂版の専攻科のPR用パンフレットを後期中間成績とともに本科4年生の保護者宛に郵送した。(12月実施済)</p> <p>・最近の入学志願者数の動向調査を行い、県外が増加、東中部が増加、西部で減少、全体でやや増加であることがわかった。</p>	<p>総務部 専攻科 広報室</p> <p>教務部 専攻科</p>

米子工業高等専門学校 第2期中期計画	平成25年度 年度計画	活動内容	主たる 担当部署
<p>③ 中学生やその保護者を対象とする広報資料を充実する。</p>	<p>・広報室を中心として、ホームページや広報資料の内容、在り方を見直し、統一的な広報戦略を立てる。 ・校外向けHPのリニューアルの検討を行い、その充実を図り、随時内容を更新する。 ・新生アンケートで入試広報資料の有効性を検証し、中学生向けパンフレットの充実を図る。 ・専攻科やJABEEに関するHPを随時刷新するとともに、広く内外に情報発信する。また、学術発表会等での専攻科生の受賞などのトピックスを専用掲示板を設置して適宜掲示する。</p>	<p>・広報室長を中心として、広報室打ち合わせを頻りに開催し、情報の共有化を図った。(9回開催。その他メール等による情報共有も行った) ・情報発信に関しては、学校広報誌として従来より発行している『彦名通信』を、各専攻科・専攻教育科関連しては、学校広報誌として従来より発行し、編集作業を行い、高等教育機関としての本校のPRに資するよう努めた。(7月、10月、12月、3月発行済) ・新たな取り組みとして、広報室が主体となったマンガという新たなメディアから中学生向けの広報活動に着手した。具体的には、松江高等との連携による「マンガで伝える『エンジニアの姿』」事業に参画し、本校OGをモデルにその11作品を制作した。(8月取材済、3月完成済) ・校外向けHPのリニューアルの検討は、各専攻科・専攻教育科からHP委員を選出してもらい、検討会議を開催して現状や更新の必要性などについて検討を行った。(1回開催)今年度は、保守契約が切れていてHPサーバーの更新を優先することとし、ルーター2台、サーバー1台を購入するとともに、校内HPを新サーバーへ移行した(9月実施済)。 ・校外向けHPに、国際化に対応して、英語版の本校案内を作成し、新張りに作成した。(3月実施済) ・中学生向けパンフレットは、学校案内パンフレットをA4版及び短縮版の2種類を作成したうえで、本校卒業生のフォローアップ調査を基としたマンガ広報による冊子も作成し3月完成した。今後に向けた広報活動に利用し、広報の充実を図る。 ・効果がみられる各種パンフレットについては、従来どおりに作成した。 ・専攻科生の受賞などのトピックスをホームページに掲載すると共に、専攻科PR用掲示板に貼り出し、広く情報発信した。(その都度実施済) ・専攻科力リキョウム改訂に伴う専攻科ホームページ等の更新を実施し、情報発信した。(3月実施済)</p>	<p>広報室 教務部 専攻科</p>
<p>④ アドミッションポリシーにふさわしい人材を的確に選抜できるように入試方法の見直しを行う。</p>	<p>・入試選抜方法改善後の入試倍率や入試成績の悪化等を認める。 ・前期中間、後期中間、学年末試験の成績について、新入学生の成績追跡調査を行う。</p>	<p>・入試選抜改善後の倍率と入試成績の悪化を調査したが、大きな変化はなかった。また、学力試験における面接の廃止の影響も目とられなかった。 ・本年度の前期中間試験結果について前期中間試験分の影響について、教務担当の前套内で検討したが、大きな影響は与えられなかった。前期期末試験の結果については、入試委員会に諮り、現行の入試方法に問題がないことを確認した。(11月実施済)</p>	<p>教務部</p>
<p>⑤ 入学者の学力水準の維持に努めるとともに、可能な限り本校を第一志望とする入学者を維持する。</p>	<p>・県内及び周辺地域の中学校を適宜に個別訪問し、高専教育への理解の促進と入学者志願者増を図る。 ・学習塾への情報提供の効果を検討した上で、校外への進学情報提供を行う。 ・県内外の広い地域を対象に、中学校に対するきめ細かな学校説明会を年2回行う。</p>	<p>・県内及び周辺地域の中学校を随時個別訪問し、高専のPRに努め入学者志願者増を図った。 ・県内及び周辺地域の中学校の高校説明会に随時参加し、学校説明を行った。 ・校長と特命教育コーディネーターを中心に東部地区、中部地区、西部地区の夏の進路説明会に参加した。(7月、9月実施済) ・鳥取県内の校長に対する学校説明会及び近隣地区の中学校校長会に参加し、校長から高専の特色などPRを実施した。(5月、6月実施済)</p>	<p>教務部</p>

平成21年度第1回米子工業高等専門学校評議員会議事要旨

1. 日 時 平成21年8月26日(水) 14時00分～16時00分

2. 場 所 米子ワシントンホテルプラザ

3. 出席者等 【委員】

田中久隆（議長）（鳥取大学工学部長）

横濱純一（鳥取県教育委員会事務局高等学校課長）

船越寛明（鳥取県西部地区中学校校長会会長）

皆尾雅人（米子市企画部長）

南場千尋（米子工業高等専門学校後援会会長）

矢末 誠（米子工業高等専門学校同窓会会長）

岡田慎也（ダイキン工業（株）滋賀製作所長）

金田 昭（財団法人鳥取県産業振興機構理事長）

欠席者：森脇 孝（米子工業高等専門学校振興協力会会長）

【米子工業高等専門学校】

水島和夫校長 小田耕平副校長 香川律教務主事 竹内彰継学生主事

大塚茂寮務主事 竹中敦司専攻科長 足立新治地域共同テクノセンター長

神原敬三事務部長

4. テー マ 「教育の目的等の周知状況及び教育環境改善について」
「本校の第2期中期計画と年度計画について」

⑤ 「学生の質の向上」

- ・二極化が進行しているが、全体の底上げを図る必要がある。
- ・基礎学力の不足している学生の指導が重要である。

（出典 平成21年8月26日 評議員会議事録）

資料 4**中学校連絡専門部会の業務（案）****1. 中学校連絡専門部会の業務**

- 中学校で行われる高校説明会に参加し中学生および保護者に本校を説明。
 - 授業の空き時間をご連絡ください。それを参考に依頼します。
 - 中学校から連絡があった時点で、空き時間がある委員にメールで依頼します。
- 注) 行くことが物理的に不可能でない方は必ず返信をください。
その中で、回数になるべく均等になるように考慮して担当者を決めます。

2. 高校説明会、中学校訪問時の標準説明資

- 中学校連絡専門部会委員専用名刺
- 説明会用パワーポイント
 - ☛ 使いやすいようにアレンジ可。B5 ノートも準備。
- その他
 - ・ 大学合格数 (22,23,24 年度)
 - ・ 求人の県内、県外別 (24 年度)
 - ・ クラブなどの実績 (24 年度)

3. 出張手続き

- 事前に加藤さんに連絡 → ウェブでの出張手続きは加藤さん
- 可能な限り公用車を利用のこと (ウェブ予約になりました。)
- 事後、1週間以内に報告書を提出 (後日、校長先生に見ていただきます。)
 - やむを得ず個人の自動車を利用して米子市内、境港市内に行った場合、1日当たりの交通費として500円が出ます。
 - 概略片道100km以内の場合、交通費は出ますが、日当は出ません。
 - 片道100km以上では交通費、日当が出ます。
 - 訪問が勤務時間外となった場合は、超過勤務手当が支給される。

(出典 平成25年度中学校連絡専門部会資料)

米子工業高等専門学校
地域共同テクノセンター

技術相談申込み・お問い合わせ
TEL 0859-24-5007

ホームページからの
お問い合わせはこちらから

TOP	組織概要	研究・技術について	公開講座	出前講座	人材育成事業	年間スケジュール
-----	------	-----------	------	------	--------	----------

研究・技術について

- ▶ 産学官連携のススメ
- ▶ 活動報告
- ▶ シーズ集(研究者紹介)
- ▶ コーディネーター紹介
- ▶ 技術相談申し込み

研究・技術について

技術相談・各種お問い合わせは、コーディネーターへお気軽にご連絡下さい。

米子高専 産学連携コーディネーターの紹介

米子高専 地域共同テクノセンター 所属

住所：〒683-8502 米子市彦名町4448 米子高専 地域共同テクノセンター リエゾン室
TEL：0859-24-5038 (不在時：0859-24-5007)
FAX：0859-24-5009



米子高専 地域共同テクノセンター
産学連携コーディネーター (鳥取県西部地区担当)
足立 新治 (あだち しんじ)
s-adachi@yonago-k.ac.jp
(原則、木・金曜日、9:00～16:00 勤務)



米子高専 地域共同テクノセンター
教育コーディネーター (全国地区担当)
眞野 博光 (まの ひろみつ)
h-mano@yonago-k.ac.jp
(原則、木・金曜日、9:00～16:00 勤務)



米子高専 地域共同テクノセンター
産学連携コーディネーター (鳥取県西部地区担当)
梅林 智美 (うめばやし ともみ)
t-umebayashi@yonago-k.ac.jp
(原則、月～金曜日、16:00～19:00 勤務)

米子高専 地域共同テクノセンター 鳥取オフィス所属

住所：〒689-1112 鳥取市若葉台南7 丁目5-1 (鳥取県産業技術センター2 階) 米子高専 鳥取オフィス
TEL：0857-50-1883
FAX：0857-50-1884



米子高専 地域共同テクノセンター
産学連携コーディネーター (鳥取県東・中部地区担当)
西本 弘之 (にしもと ひろゆき)
h-nishimoto@yonago-k.ac.jp
(原則、水・金曜日、9:00～16:00 勤務)

(出典 校外向け Web ページ 地域共同テクノセンター 平成 25 年度スタッフ紹介)



米子高専紹介コーナー ホーム > 新着・お知らせ情報 > 昨年に引き続き鳥取商工会議所で「米子高専展2012」を開催中です。

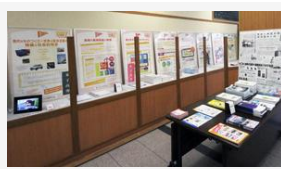
- 米子高専紹介コーナー
- 創立50周年記念事業
- 第49回 中国地区高等専門学校体育大会 (冬季大会)
- デザインコンペティション2013 米子
- 米子高専 虎の巻
- RADIO CM DARAZ FM 6 放送部
- 卒業生メッセージ

- CONTENTS
- ▶ ホーム
 - ▶ 学校案内
 - ▶ 専攻科案内とシラバス
 - ▶ 学科案内とシラバス
 - ▶ 入学案内
 - ▶ JABEE
 - ▶ キャンパスライフ
 - ▶ 学生の活躍
 - ▶ 各種講座案内
 - ▶ 産学連携・地域サービス
 - ▶ 後援会
 - ▶ 同窓会
 - ▶ 保護者の方へ
 - ▶ 新型インフルエンザ対応
 - ▶ 情報公開
 - ▶ 教育・研究
 - ▶ 外部評価・自己点検評価
 - ▶ 本校の取組み
 - ▶ 施設
 - ▶ 採用情報
 - ▶ リンク集
 - ▶ アクセス
 - ▶ 利用者別メニュー
 - ▶ 第49回中国地区高等専門学校体育大会 (冬季大会)

過去ログ



部署 : 企画・社会連携係
公開日時 : '12/06/29



米子高専では、6月26日から7月17日までの期間、鳥取市にある鳥取商工会議所の1階エントランス内展示コーナーで「米子高専展2012」を開催しています。

今回の展示は、米子高専から100kmも離れた県庁所在地の鳥取市で行うものですが、昨年好評を博したことから2度目の開催となりました。

高専の教育制度や各学科の特徴などを紹介するパネルをはじめ、建築学科の学生が制作した住宅模型などの作品を多数展示しています。

さらに今年は、卒業生からのメッセージをフォトフレームによる動画で展示する試みも新たに加えています。



また、商工会議所を訪れる企業関係者向けには米子高専の研究シーズの紹介、一般市民向けには開催地である鳥取市内の商店街活性化計画や鳥取砂丘美術館計画、そして県東部で活躍している本校卒業生の建築作品模型など、幅広い層の人々に来場してもらえよう工夫も凝らしています。

こうした仕掛けの効果もあり、立ち寄った関係者のみならず、わざわざこの展示を見に来た人々で賑わいを見せているようです。

米子高専では、引き続きこのような多角的な広報活動を展開していく予定です。



鳥取商工会議所ビルで米子高専展2012が開かれています (7月17日まで)

(出典 校外向け Web ページ)

資料 11-3-①-5



最近の産業と経済の動向

- 企業活動のグローバル化
- 中国、インド等の急成長
- 欧米の経済危機
- 日本は長期不況と産業の空洞化
- 少子高齢化(国内)
- 地球環境問題
- iPadなどの情報機器の利用とインターネット社会

地域社会にも大きな影響 ⇒ 地方経済の不振、人材流出、理工系離れ

今、社会ではどのような人材が求められているか

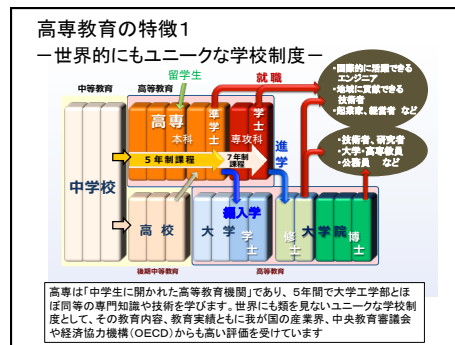
就職状況が厳しい中、理系・文系を問わず単に大学を卒業すればよいという時代ではなくなっている

- 製造業関連企業の生産拠点を海外移転等に起因する「求める人材像」の変化
 - …やる気と力のある人はほしい、が企業の本音
- 産業のグローバル化による就職活動の国際化 ……外国人学生、留学生との競争
- 農林水産業の衰退(後継者不足、国際化による生産性の相対的低下)
- 人口減・経済縮小による公務員、教員など文系職種従事者の削減
- 就活失敗が原因の自殺者が急増

このままでは大学生活の将来はたいへん、…時代に対処できる学校教育が必要
理系と文系間の格差の是正現象：生涯学習は 進路>文系 企業の上昇以上の数は 理系>文系

↓

- 東日本大震災被災地の復興と日本経済の立て直しが急務の中、海外でも活躍できる実践力のある人材(工業・産業部門では優れたエンジニア、研究者、管理者、経営者等)が求められている
- 経済不況と少子高齢化が進む地域社会をどう立て直すのか。地域の産業復興やまちづくりに関与できる意欲と力のある人材が求められている



高専教育の特徴2—明確な教育目的

創造的で実践的な技術者(エンジニア)や研究者に求められる **資質と能力を有する人材の育成**

科学・技術に携わる職業人の資質と能力とは
多くの制約条件の中で、いろいろな力を駆使して、工学的・社会的な問題解決のための「解決案」を提示する能力

この橋をかけることがエンジニアの仕事

実践的技術者(エンジニア)に求められる資質と能力とは

—小惑星探査機「はやぶさ」を例として—

「はやぶさ」は、小惑星探査を目的に開発された探査機ですが、探査の対象は太陽周囲軌道を持つ「イトカワ」と名付けられた小惑星です。そのミッションは・・・

- ①小惑星まで長期間の飛行を行い、②自分で小惑星に近づき、
- ③着陸してその表面から物質のサンプルを採取し、④地球に持ち帰る

あいまいに定義された課題

↓

岩石資料をもって地球に帰還する
具体的に定義された解決案

探査機やロケットを設計し、打ち上げ・飛行・着陸・帰還、帰還などの方法を具体的に考え、計画や文書で提示すること

打ち上げ7年後の
2010年10月19日に無事帰還

(出典 平成 24 年度入試説明会 校長説明資料)

リケジョの
ガールズ白書

お問い合わせはこちら➤



イベントガイド

2012

6月3日 (日)

DARAZ FM「米子高専エンジン×ピープル」(79.8MHz、22:00~22:30)
番組内にてプロジェクト説明(再放送6月5日(火)19:30~20:00)



6月20日 (水)

先輩女子学生による中学校講演 in 米子市日吉津村中学校組合立箕蚊屋中学校



7月1日 (日)

DARAZ FM「米子高専エンジン×ピープル」(79.8MHz、22:00~22:30)
番組内にてプロジェクト説明(再放送7月3日(火)19:30~20:00)



7月11日 (水)

先輩女子学生による中学校講演 in 安来市立第一中学校



8月8日 (水)

鳥取短期大学にて実験イベント実施



8月10日 (金)

米子高専にて学校説明会・体験イベント(『第1回オープンキャンパス』:3年生男女対象)



8月22日 (水)

米子高専にて学校説明会・体験イベント(『エンジョイ科学館』:1~3年生男女対象)

[PDF](#) [お申込はこちら](#)



9月1日 (土)

『工場見学バスツアー』(大山乳業・大谷酒造:1~3年生女子優先・保護者同伴のこと)

[PDF](#)

工場見学バスツアーの受付はおかげをもちまして定員に達しましたので終了致しました。
ありがとうございました。



11月17日 (土)

米子高専にて学校説明会・体験イベント・講演会(『第2回オープンキャンパス』:3年生男女対象)



11月18日 (日)・12月15日

講演会『先輩と話そう♪“リケジョcafe”』

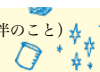
[PDF](#)



2月3日 (日)

米子コンベンションセンターにて『親と子のための就職フェア』開催(中学生・高校生女子優先・保護者同伴のこと)

[PDF](#)



このHPは「独立行政法人科学技術振興機構 女子中高生の理系進路選択支援プログラム」により作成されたものです。

卒業生「そうだ、理系に行こう!理系女子(n・girl)増加へのフレイブステップ」

採択校

米子工業高等専門学校 | 鳥取短期大学 |

(出典 校外向け Web ページ 理系女子)

学科長会議
25.4.17

資料 6

「広報室」提出資料

2013/4/17 広報室長

I 設置目的

①広報の充実、②情報の一元化、③広報業務の効率化

II 所掌業務

1. 学校全体の広報活動

1) 入試広報、テクノセンター広報、図書館広報、総務広報、学生広報、寮広報、各学科・科・専攻科広報など

※従来通り各部署で実施し、必要に応じて広報室が連絡・調整等に当たる。

2) 『彦名通信』編集・発行、ホームページの管理・運営・充実、「米子高専知的セミナー」(県民チャンネル)の実施

※主に『彦名通信』の編集に従事する「広報連絡委員」を各学科・科から選出(依頼)。

『彦名通信』の編集の他に各学科・科等との連絡・調整役を務める。

*『彦名通信』については、その発行目的などを再検討する(特集記事の掲載など内容・配布先の検討)。

※平成25年度は、『彦名通信』の編集を中心とした「広報連絡委員」の会議と、各学科・科等で各部署のHPを担当している教員及び広報室によるHPの検討(管理・運営システム、トップページの改修、コンテンツの拡充など)の会議を持ち、平成26年度に両者の統合&HPの充実を目指す。

*「知的セミナー」については、広報室長名で依頼し、インセンティブの付与を検討する。

3) 新規の広報案件に対する調整・企画、及び各部署との連携・協力・実施

2. 個人情報の管理(許諾)

3. 中海テレビセンタービル(36万円/年)による広報活動

III 運営方針(案)

- 各部署が連携し効果的・効率的な広報活動を展開するための連絡・調整機能を発揮する。
 - *各部署における広報活動状況(平成24年度までの実績)の集約・整理をし、現状把握と課題抽出を行う。
 - *各部署の担当広報業務の精査を行い、広報活動の割り振り等のガイドラインとする。
 - *各部署からの広報情報の一元化システムの構築を検討する。
 - *各部署で発行されている広報誌等を収集・活用するための「広報室」の設置を検討する。
- 「広報戦略」(仮称)を策定・整備し、広報施策の企画・立案・調査等を行う。

(出典 平成25年4月17日 学科長会議資料)

平成25年度米子工業高等専門学校 入試説明会開催要項

米子工業高等専門学校

1. 趣 旨 本校の入試制度について募集要項に基づいた説明を行い、出願に際しての相互理解を深めることで入試業務が円滑に実施できるとを目的とします。

2. 対 象 中学校・進学塾等の進路指導担当者

3. 日 程

期 日	米子会場	鳥取会場	倉吉会場	但馬会場	新見会場	庄原会場
	平成24年9月20日(木)	平成24年9月24日(月)	平成24年9月24日(月)	平成24年9月25日(火)	平成24年10月25日(木)	平成24年10月15日(月)
場 所	米子工業高等専門学校	ホープスターとっとり (2F 白真珠)	倉吉未来中心 (2Fセミナールーム7)	但馬地域産業振興センター (3F コンピュータ室)	新見文化交流・ 生涯学習センター 「まなび広場にいみ」 (学習室1-A)	庄原グランドホテル (秋桜の間)
郵便番号	683-8502	680-0834	682-0816	668-0041	718-0011	727-0013
住 所	米子市彦名町4448	鳥取市永楽温泉町556	倉吉市駄経寺町212-5	豊岡市大磯町1-79	新見市新見123-2	庄原市西本町2-16-5
電話番号	0859-24-5022	0857-26-3311	0858-23-5390	0796-24-5551	0867-72-6110	0824-72-6789
受 付	13:10~13:30	13:40~14:00	10:10~10:30	10:10~10:30	13:10~13:30	13:10~13:30
挨拶・学校説明	13:30~14:00	14:00~14:30	10:30~11:00	10:30~11:00	13:30~14:00	13:30~14:00
入試説明	14:00~14:30	14:30~15:00	11:00~11:30	11:00~11:30	14:00~14:30	14:00~14:30
質疑応答(懇談)	14:30~14:50	15:00~15:20	11:30~11:50	11:30~11:50	14:30~14:50	14:30~14:50
校内見学 (希望者)	14:55~15:30					

4. 申 込 (1) 締 切 平成24年9月6日(木)

(2) 方 法 別紙参加希望調に必要事項を記入し、**FAX**にて申し込んでください。

(3) 申込先 〒683-8502 米子市彦名町4448 米子工業高等専門学校 学生課教務・キャリア支援係

TEL 0859-24-5022

FAX 0859-24-5029

資料 11-3-①-8

(出典 平成25年度 入試説明会資料、学生課教務・キャリア支援係資料)

資料 11-3-①-9

おもしろ科学体験 フェスティバル 2013 in 福山

見に来てね!

3高専自慢の「高専ロボコン」出場ロボットを展示!
全国大会入賞ロボットの操作体験もできます!

呉高専

水素水でレモンの香りを抽出してみよう!

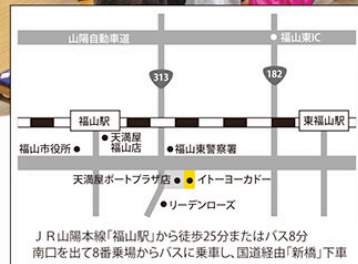
米子高専

☆将来は匠?パソコンで未来のわが家を設計!
☆意外と強い?紙で作ろう建築模型。
☆米子高専をパネルで紹介。

広島商船高専

～ものづくりと科学～

- ☆竹の万華鏡
- ☆未来のふね
- ☆ひかりの羽車



2013.6.30 (日) 10:00~16:00

入場無料

場所:イトーヨーカドー福山店・天満屋ポートプラザ店「ポートモール」

高専って知ってる?

高専は、中学校を卒業した生徒が入学する「国立」の学校で、大学と同じ「高等教育機関」です。5年制なので専門技術についてじっくり勉強できます。専門技術教育がしっかりされているので就職希望者の就職率が高いのが特徴です。進学率も高く、全国の国公立大学の3年生へ編入学したり、専攻科へ進むこともできます。



主催: 呉工業高等専門学校 / 広島商船高等専門学校 / 米子工業高等専門学校
 後援: 広島県教育委員会 / 福山市教育委員会
 お問い合わせ: 呉工業高等専門学校 教務係 0823-73-8416



(出典 平成 25 年 6 月 30 日 おもしろ科学体験フェスティバルチラシ)

平成23年度米子工業高等専門学校評議員会議事要旨

1. 日 時 平成24年3月8日(木) 14:00～16:00

2. 場 所 米子全日空ホテル 2F 琥珀鳥の間

3. 出席者 【委員】

田中久隆（議長）（鳥取大学工学部長）

太田泰雄（舞鶴工業高等専門学校長）

増田孝二（米子工業高等専門学校後援会会長）

森脇 孝（米子工業高等専門学校振興協力会会長）

（欠席者）

藤原辰広（鳥取県教育委員会高等学校課長）

田中義雄（米子市立弓ヶ浜中学校校長）

湯浅隆司（米子市企画部長）

矢末 誠（米子工業高等専門学校同窓会会長）

岡田慎也（ダイキン工業株式会社常務執行役員）

金田 昭（(財)鳥取県産業振興機構理事長）

【米子工業高等専門学校】

齊藤正美校長 小田耕平副校長 松原孝史教務主事 森田典幸学生主事

能登路淳寮務主事 竹中敦司専攻科長 香川律特任主事

大山正人事務部長

（説明者等）

小田耕平副校長

4. テーマ 「日本技術者教育認定機構（JABEE）への対応について」

③ 質疑応答・意見交換

複合システムデザイン工学プログラムの学習教育目標及びJABEE目標との関係をより
具体・詳細に記述，説明する工夫について。

教員間ネットワークの充実について。

学習・教育目標と各授業との繋がりを明確にし，具体的に表記することについて。

複合システムデザインの4学科・2専攻の連携について。等

（出典 平成24年3月8日評議員会議事録）

平成25年度第5回専攻科委員会議事要旨

日時	平成25年10月8日(火) 16:15~16:55
場所	小会議室
出席者	委員長 稲田専攻科長(建築), 小川副専攻科長(物質), 宮田専攻科長補(電気), 山根専攻科長補(機械), 山口(機械), 中山(電子), 細田(建築), 古杉学生課長の各委員 荒木 教務・キャリア支援係長
欠席者	大庭(教養)委員

議 題

承認・審議事項

- 1 カリキュラム改定に伴う学習・教育到達目標、科目系統図の改訂について
専攻科長から来年度以降の生産システム工学専攻及び物質工学専攻のカリキュラム改定の申請が、大学評価・学位授与機構より認められたことに伴い、学習・教育到達目標、科目系統図の改訂を行いたい旨説明があり、これらの改訂についてJABEE委員会へ申し送ることが承認された。
- 2 平成25年度後期授業担当者の交代について
専攻科長から資料のとおり説明があり、授業担当者の交代について承認された。
- 3 JABEE認定の学生について
副専攻科長から資料のとおり複合システムデザイン工学プログラムの修了予定者1名について、プログラム修了の要件が整っていることが説明された。
説明の後、修了要件を満たしていることが確認され、JABEE委員会へ申し送ることが承認された。

報告事項

- 1 平成26年度以降の専攻科カリキュラム改定(学則等の変更)申請結果について
専攻科長からカリキュラム改定(学則等の変更)の申請が、大学評価・学位授与機構より認められたとの報告がなされた。
- 2 平成25年度専攻科長会議報告について
専攻科長から資料のとおり報告がなされた。
- 3 ISTS2013/香港における英語による口頭発表について
専攻科長から資料のとおり専攻科生1名が発表することについて説明があった。
特別欠席の審議については、特別欠席届提出後に認めることで了承された。

米子工業高等専門学校
地域共同テクノセンター

技術相談申込み・お問い合わせ
TEL 0859-24-5007

ホームページからの
お問い合わせはこちら

TOP	組織概要	研究・技術について	公開講座	出前講座	人材育成事業	年間スケジュール
-----	------	-----------	------	------	--------	----------

組織概要

- ▶ 所管事項
- ▶ 運営方針
- ▶ スタッフ紹介
- ▶ テクノセンター施設・設備
- ▶ 鳥取オフィス
- ▶ 連携協定締結
- ▶ 振興協力会

組織概要

連携協定締結

米子高専との連携協定締結先

1. (財)鳥取県産業振興機構
2. 米子市
3. 米子市教育文化事業団
4. 商工中金
5. 米子信用金庫
6. 鳥取県
7. (地独)鳥取県産業技術センター
8. 境港市

連携協定締結先

鳥取県産業振興機構
鳥取県産業振興機構は、鳥取県内の産業振興を目的として、県民の生活向上と産業の発展を促進することを目的として設立された。本センターとの連携協定締結により、県民の生活向上と産業の発展を促進することを目的として、県民の生活向上と産業の発展を促進することを目的として設立された。

米子市
米子市は、鳥取県の南西部に位置する。本センターとの連携協定締結により、米子市の産業振興と人材育成を促進することを目的として設立された。

米子市教育文化事業団

米子市教育文化事業団は、米子市の教育文化事業を目的として設立された。本センターとの連携協定締結により、米子市の教育文化事業を促進することを目的として設立された。

商工中金
商工中金は、日本の主要な金融機関の一つである。本センターとの連携協定締結により、米子市の産業振興と人材育成を促進することを目的として設立された。

(出典 校外向け Web ページ 地域共同テクノセンター)

資料 11-3-②-2

米子高専 地域共同テクノセンターは、元気あふれる地域づくりに貢献します！

産

技術相談・共同研究などの推進

- 民間企業が抱える技術的な課題に対する相談を行います。
- 米子高専との共同開発により新しい発想を取り入れた技術革新が可能です。

▶ フマキラー・どこでもベープ(ファン式)害虫防除装置) 防虫用ファンシステム開発設計



独自の「ファン」駆動設計プログラムを用いて、専用設計板を用いたファン駆動の小型駆動装置を開発。風量と風速を自在に調整可能なファン駆動装置。ファン、ファン駆動装置を駆動する専用設計の特殊変圧器・ファン・ファンシステムを開発しました。装置を効果よく駆動するファン駆動装置の開発が実現されました。

▶ 妖怪社・おみくじロボット



2006年秋以降、妖怪社プロダクションで有名なキャラクターのロボットを開発し、おみくじロボットを開発しました。おみくじロボットは、おみくじの箱に入れ替わる仕組みで、本物の箱と見分けがつかないようになっています。

▶ 日南振興株式会社エコクックユニットハウス (木製産業用ハウス)



企業名: 日南振興株式会社
職工: 藤田 祐二 教授
地域産木材を用いた新たな構造物の開発。木材の資源の有効活用を促進し、地域産木材の活用を推進しています。

米子高専振興協力会

1991年の発足以来、米子高専の教育・研究等の諸活動を支援。"高専教育を支援する"技術と出会う「人と出会う」をテーマに掲げ、産学官交流の場として技術交流会や講演会など様々な事業を展開しています。多くの地元企業にご加入いただき、2011年には会員企業が100社を超えました。

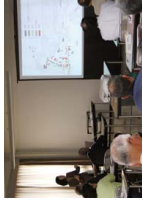
地域



▶ 出前講座
地域における生涯学習推進の担い手として、出前講座を行っています。本校の教職員が積極的に地域に出席し、「科学」や「生活」などをテーマにした出張講座を行っています。



▶ 公開講座
教養・研究機能を広く地域に還元し、青少年の科学・技術等に対する関心を高めようとするものです。本講座への参加を通じて「科学」や「ものづくり」の面白さや意義を広く地域に発信しています。



▶ 米子高専文化セミナー
県高専の科学技術から地域の文化や暮らしに役立つ情報まで、さまざまなテーマを取り上げる講演会です。本校教職員の講師と、地域のみなさまとが語りあえます。

地域課題を解決し 地域の活性化を推進

- 本校の特長を生かし、地元の高業振興や教育・文化の発展に寄与します。
- 各機関と包括連携協定を締結し、多様な分野で地域を盛り上げます。

官



CASE1 中海の水質調査



講師名: 米子市 物理工学科: 清水 重 教授
本校では1999年から環境研究として、地域の水質調査を行っています。環境省のCOD(化学酸素消費量)などの項目を調査しています。水質・無機窒素や有機窒素の变化が科学的に中海の水環境に及ぼす影響を解明し、水質保全に活用することを目的としています。

企業技術者等と連携した地域共同教育の推進

- 課題設定と課題解決能力を養う実践的な教育に取り組んでいます。
- 地元企業と連携し、ものづくり技術の継承と地域の人材裾野アップを目標とします。



▶ 地域一ズに合わせた 地域共同教育を推進

地元企業が抱える課題やニーズを学生の「実学実研」・「特許」・「共同研究」等に結びつけ、地元企業との「地域共同教育」を実施しています。地元企業との「地域共同教育」を通じて、実践的な教育が実現され、地域貢献が促進される。教育活動の推進が、地域活性化に貢献しています。また、これらの活動を通じて、学生の「実践力」や「社会貢献力」が向上し、地域社会に貢献しています。



▶ 電気自動車の分解・組立実習を通じて 次世代の技術者を養成

EV(電気自動車)等の生産を計画している株式会社アオアオ(アオアオ)と連携し、EV(電気自動車)の分解・組立実習を実施しています。EV(電気自動車)の構造や仕組みを学ぶことで、次世代の技術者を養成し、地域社会に貢献しています。



▶ 建築学科の学生達のアイデアをもとに、自動車教習所のトイレリニューアル

学校法人 米子自動車学校からの依頼を受け、建築学科の学生達が山間部の公共施設トイレを調査するにあたり、アイデアを募集しました。学生達からは「トイレの壁紙をかわす」「トイレの照明をかわす」「トイレの床をかわす」などのアイデアが寄せられました。これらの中から、最も実現性が高いアイデアを採用し、トイレのリニューアルを実施しました。

CASE2 JR米子駅前周辺設備計画の立案



講師名: 柏原町 建築工学科: 堀田 賢久 准教授・学生
学生達は柏原町からの依頼を受けて、JR米子駅前に周辺設備計画の立案を行いました。駅周辺の環境や利用者のニーズを調査し、駅周辺の整備計画を立案しました。また、駅周辺の環境や利用者のニーズを調査し、駅周辺の整備計画を立案しました。

CASE3 自然エネルギー(地熱・太陽光)の利用による農作物の育成促進研究



講師名: 鳥取県森林総合研究所 職工: 藤田 慎一 教授
自然エネルギー(地熱・太陽光)の利用による農作物の育成促進研究を行っています。地熱や太陽光を利用した温室やトンネルハウスを建設し、農作物の育成を促進しています。また、地熱や太陽光を利用した温室やトンネルハウスを建設し、農作物の育成を促進しています。

(出典 米子高専地域共同テクノセンターパンフレット)

資料 11-3-②-3 同窓生による外部講師例

3. 企業技術者等活用プログラムによる外部講師の招聘

平成 20 年度に始まった企業技術者等活用プログラム制度による 24 年度の外部講師招聘実績は下表に示される通りであった。

企業技術者等活用プログラムによる外部講師招聘実績

NO.	講 師	月 日	主な対象	受講者数	講演・講義内容
1	東亜ソフトウェア㈱ 本池 由絵	5月20日	希望学生	6	ホームページ作成等に関する指導
2	㈱三友化学研究所 大谷 恭子	9月13日	C科5年生	7	「学生時代に学んでおくべきこと～化学企業編～」
3	NTTコミュニケーションズ㈱ 藤原 亜希子	11月17日	希望学生	14	「理系の道を考えるあなたに必要な3つのチカラ」
4	元㈱三菱総合研究所 藤本 隆宏	11月19日	希望学生	18	「現場力の強化による生産性向上」 「地域における産業を超えたものづくり教育の可能性」
5	大阪市立大学 土江 松美	12月15日	希望学生	11	「私の仕事について」
6	㈱三友化学研究所 大谷 恭子	2月3日	希望学生	7	「学生時代に学んでおくべきこと～理系女子の視点から～」
7	㈱水温研究所 山根 昭彦	3月2日	希望学生	10	「鳥取発『水温技術』とは」
8	㈱デンソー技研センター 安部 良夫(植田 智之)	2月26日	M科 学生・技術 職員等	45	ものづくりを支える人づくり ーデンソーによる技能者育成ー

No.	講 師	月 日	主な対象	受講者数	講演・講義内容
9	㈱タジマモーターコーポレーション 代表取締役会長兼社長 田嶋 伸博	10月24日	E科3～5年生	32	「EVの普及に向けた業界や協会の取り組み」
10	㈱SI エージェンシー 黒崎 良太 他1名	9月9日	希望学生 学外希望者	11	スマートフォン向けアプリケーション開発入門
11	鳥取県産業技術センター 矢野原 泰士	5月29日	5C	11	酵素化学 機能性材料
12	㈱水温研究所 山根 昭彦	7月10日	S2	4	「水温技術とは？」
13	鳥取県産業技術センター 機械素材研究所 玉井 博康	7月30日	5C	29	材料プロセス工学
14	㈱稲田本店 信木 真一 築谷 真司	10月29日	5C	13	応用微生物 機能性材料
15	鳥取県金属熱処理協業組合 製造課長 小谷 弘	11月7日	3C	40	材料・生物工学概論
16-1	㈱シンテック 藪内 信一郎	11月13日	4C	42	情報工学II 英語文献の読み方&翻訳におけるコツ
16-2	㈱シンテック 藪内 信一郎	1月8日	4C	45	情報工学II 英語文献の読み方&翻訳におけるコツ
17-1	サンイン技術コンサルタント㈱ 寺田 憲彦	1月8日	4C	46	分析化学II「企業における社員の質的向上に向けて」
17-2	サンイン技術コンサルタント㈱ 寺田 憲彦	1月15日	4C	46	分析化学II「企業における分析のポイント」
18	鳥取県産業技術センター 機械素材研究所 玉井 博康	1月11日	S1	3	無機工業化学 機能性材料
19	王子製紙株式会社米子工場 畑中 明	1月21日	4C	44	化学工学II「モノ作りの考え方」
20	吉村寿博建築設計事務所 吉村 寿博	10月17日	AM: 4A+5A PM: 5A+S	60	午前：卒業研究中間発表に対する指導 (設計技術者の立場から) 午後：講演 「高専建築学生に向けた建築設計の現在」
21	畝森泰行建築設計事務所 畝森 泰行	10月17日	AM: 4A+5A PM: 5A+S	60	午前：卒業研究中間発表に対する指導 (設計技術者の立場から) 午後：講演 「高専建築学生に向けた建築設計の現在」
22	Studio-L 代表 山崎 亮	1月21日	5A+S	12	「学生フアンリサーチ養成に関する講習会」 指導・実技講習
23	(公財)鳥取県産業振興機構 知的所有権センター 景山 隆	9月28日	30名	29	知的財産権の IPDL 検索(基礎編)・特許の新規性進歩性について
24	(公財)鳥取県産業振興機構 知的所有権センター 景山 隆	2月13日	30名	26	知的財産権の IPDL 検索(応用編)・特許検索の種類・方法に関する指導
25	田辺特許商標事務所 田辺 義博	10月19日	本科5年生	174	特許検索に関する指導
26	ロジックテクノロジー 田淵 利彦	2月27日～ 3月4日	希望学生	10	「C言語で学ぶ HS マイコン組み込み開発入門」

(出典 平成 24 年度地域共同テクノセンター活動報告書 P31-32)

■米子工業高等専門学校 【2014年度 科目情報詳細ページ】

資料 11-3-②-4 機械工学セミナーシラバス

授業要目 (シラバス) 【機械工学科 - 必修】

対象学科	機械工学科	担当教員	機械工学科 卒業生6～7名 (下記担当者氏名参照)		
授業科目名	機械工学セミナー	科目コード			
学年	3学年	開講学期	通年	単位数	1単位
区分	必修	授業の形態	単位種類		
授業概要	この講義は本校の教育目標のうち専門分野における「コミュニケーション力」、「倫理力」を養う科目である。本校機械工学科卒業生で、地元において技術関係の業務に携わっている現役エンジニアより、現在まで取り組んできた、あるいは現在取り組んでいる業務についての紹介、学生時代の学習は役に立っているか、学生時代をいかに過ごすべきか、実社会においてどのようなことが必要か等、様々な観点に立って各講師による講義やメッセージを受ける。				
関連する本校の学習教育目標	(D) 地球の一員としての倫理力 (E) 社会と関わるためのコミュニケーション力	関連するJABEE学習教育目標	(a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 (b) 技術者が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解(技術者倫理) (f) 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に適用するコミュニケーション基礎能力		
到達目標	専門科目の構成比率が増加してゆく3年次より、専門科目を学ぶ目的意識と実社会における科学技術の役割を認識させる。具体的には (1) 今後の学生生活を送る上での勉学目標をより明確なもの、具体的なものとできる。 (2) 卒業後の進路をより具体的に考えることができる。 (3) 今後の学生生活の送り方に対するモチベーションを高める。				
授業の進め方とアドバイス	各講師により4回から5回程度の講義がある。話の中で専門用語をはじめとして分からないことは積極的に質問すること。定期試験は実施しない。その代わり各担当者分の最後の講義に必ず、各講師より課題レポートあるいは簡単な試験が科されるので必ず提出のこと。一回でも未提出があると評価されないの注意すること。なお、質問については各講師の来校時、および提出課題レポートなどに記載することで適時対応を行う。				
授業内容スケジュール	回数	授業内容			
	第1週	精密計測に必要な要素技術と発展著しいオプトエレクトロニクス技術について解説 ・西本 弘之			
	第2週	同上			
	第3週	同上			
	第4週	同上課題提示			
	第5週	電気自動車についての解説 ・永井 宏一郎			
	第6週	同上			
	第7週	同上			
	第8週	同上課題提示			
	第9週	企業における環境エコロジーの取組について解説 ・坂東 直樹 (日立金属(株))			
	第10週	同上			
	第11週	同上			
	第12週	同上、課題提示			
	第13週	ロウ付けバイト作りからバイトを使った加工について解説 ・生田 真也 (田村精機(株))			
	第14週	同上			
	第15週	同上			
	第16週	同上、課題提示			
	第17週	熱交換器の設計についての解説 ・岩永 幸夫 (米子製鋼(株))			
	第18週	同上			
	第19週	同上			
	第20週	同上、課題提示			
	第21週	空気圧機器の基礎 ・斎木 厚史 ((株)守谷刃物研究所)			
	第22週	同上			
	第23週	同上			
	第24週	同上、課題提示			
	第25週	精密鑄造品の流れとレイアウト改善について解説 ・松田 真二 (鳥取ビラコステック(株))			
	第26週	同上			
	第27週	同上			
第28週	同上、課題提示				
教科書	各自自作テキスト				
参考書					
関連教科	機械工学教科全般				
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合	授業目標の達成された程度により評価がなされる。成績は1) 課題レポート(90%)、2) その他として授業時間における質疑応答及び授業態度 (10%) を加算し総合評価とする。なお、学年末における最終成績は講師全員の評価の平均点とする。			
	定期試験	%			
	レポート	90%			
	演習・小テスト	%			
	その他	10%			
		100%			
備考	機械工学科卒業生6～7名によるオムニバス方式とする。講師				

(出典 校外向け Web ページ 平成 26 年度シラバス)

資料 11-3-②-5

建築学科非常勤講師一覧

職名	氏名	米子高専卒	専門分野	準学士課程の担当授業科目
非常勤講師	江角俊則		建築設計	設計製図Ⅳ
非常勤講師	門脇 昇	米子高専卒	建築構造設計	設計製図Ⅴ
非常勤講師	加納寿栄	米子高専卒	建築工事管理	建築生産
非常勤講師	木谷清人		建築設備設計	設計製図Ⅴ
非常勤講師	杵村優一郎		建築設計	設計製図Ⅱ、設計製図Ⅲ
非常勤講師	来間直樹		建築設計	設計製図Ⅱ
非常勤講師	白枝 伸	米子高専卒	建築設計	設計製図Ⅲ
非常勤講師	嶽川安和	米子高専卒	建築工事管理	建築生産
非常勤講師	田中正夫		建築設計	設計製図Ⅲ
非常勤講師	野口登志雄	米子高専卒	建築設計	創造実験・演習
非常勤講師	馬庭和志	米子高専卒	建築構造設計	鋼構造
非常勤講師	山下哲也	米子高専卒	建築行政	都市計画Ⅱ(法規)
非常勤講師	山根秀明		建築設計	設計製図Ⅳ

(出典 平成 25 年度 建築学科資料)

資料 11-3-②-6 米子高専振興協力会からの援助実績

3. 平成 24 年度 寄附金受入一覧

(単位:円)

No.	担 当 者 名		申 込 者	寄 附 の 目 的	寄附金額	うち 間接経費	申請書受付 年 月 日
	所属学科等	氏 名					
1	電気情報工学科	田中 博美	公益財団法人 中国電力技術研究財団	学術研究助成のため	1,100,000	55,000	H24.4.2
2	物質工学科	櫻間 由幸	崎田農園	柑橘類に含まれる有効成分の 利用に向けた研究への利用	300,000	15,000	H24.4.2
3	建築学科	玉井 孝幸	社団法人 鳥取県建築士事務所協会	鳥取県内の建築技術向上の 推進に伴う費用として	800,000	40,000	H24.4.6
4	物質工学科	伊達 勇介	耐火物技術協会	耐火物に関する研究助成	500,000	25,000	H24.4.9
5	物質工学科	谷藤 尚貴	株式会社ADEKA	谷藤尚貴 准教授研究助成の ため	300,000	15,000	H24.4.11
6	機械工学科	矢壁 正樹	株式会社ミツバ	超音波による油膜厚さ測定に 関する研究	200,000	10,000	H24.4.16
7	機械工学科	大塚 茂	フマキラー株式会社	害虫防除器用各種ファンシス テムの研究	500,000	25,000	H24.4.23
8	機械工学科	大塚 茂	株式会社米子シンコー	軸流ファン自動設計システム に関する研究	300,000	15,000	H24.5.7
9	機械工学科	早水 庸隆	株式会社鶴見製作所	粒子レス可視化計測法の検討	500,000	25,000	H24.5.16
10	機械工学科	権田 岳	株式会社鶴見製作所	ポンプカットモデルの教育へ の利用(機械設計製図)	200,000	10,000	H24.5.16
11	機械工学科	大塚 茂	株式会社フジオー	光触媒型殺菌・消臭装置用省 エネファンシステムの研究	300,000	15,000	H24.6.1
12	機械工学科	松本 至	株式会社アイズ	ロボット技術の研究助成	500,000	25,000	H24.6.6
13	学生課長	古杉 俊輔	米子高専振興協力会	全国高専プログラミング コンテストへの参加支援	100,000	0	H24.7.19
14	物質工学科	谷藤 尚貴	ソニー株式会社	有機硫黄化合物に関する 研究助成のため	1,000,000	50,000	H24.7.20
15	機械工学科	森田 慎一	スリーエステクノ 株式会社	省エネルギー床暖房システ ムの研究	100,000	5,000	H24.7.31
16	機械工学科	森田 慎一	スリーエステクノ 株式会社	省エネルギー床暖房システ ムの研究	100,000	5,000	H24.8.31
17	建築学科	小椋 弘佳	小椋 弘佳	大山隠岐国立公園を活かした 地域再生に関する研究	100,000	0	H24.9.27
18	機械工学科	森田 慎一	スリーエステクノ 株式会社	省エネルギー床暖房システ ムの研究	100,000	5,000	H24.9.28
19	学生課長	古杉 俊輔	米子高専振興協力会	全国高専デザコン2012 in 小山への参加支援	100,000	0	H24.10.9
20	機械工学科	大塚 茂	株式会社米子シンコー	軸流ファン自動設計システ ムに関する研究	300,000	15,000	H24.10.17
21	機械工学科	権田 岳	株式会社守谷物研究所	S P S 装置を用いた用途開発	300,000	15,000	H24.10.30
22	機械工学科	森田 慎一	スリーエステクノ 株式会社	省エネルギー床暖房システ ムの研究	100,000	5,000	H24.10.31
23	機械工学科	森田 慎一	株式会社赤松産業	カーボンオフセット燃料の研 究開発	150,000	7,500	H24.11.1

(出典 平成 24 年度地域共同テクノセンター活動報告書 P. 16)

独立行政法人 国立高等専門学校機構
国立米子工業高等専門学校
 Yonago National College of Technology

▶ 入学を希望される方 ▶ 地域社会の方 ▶ 企業の方 ▶ 卒業生の方 ▶ 同窓会 ▶ 在学生の方

米子高専紹介コーナー

ホーム > 教育・研究 > 教育情報の公開 > 教育情報の公開

50th
 国立米子工業高等専門学校
 創立50周年記念事業

第49回 中国地区
 高等専門学校体育大会(冬季大会)

第49回 中国地区
 高等専門学校体育大会(冬季大会)

デザインコンペティション2013 米子

米子高専
 虎の巻

RADIO CM
 DARAZ FM
 放送部

卒業生
 メッセージ

CONTENTS

- ▶ ホーム
- ▶ 学校案内
- ▶ 専攻科案内とシラバス
- ▶ 学科案内とシラバス
- ▶ 入学案内
- ▶ JABEE
- ▶ キャンパスライフ
- ▶ 学生の活躍
- ▶ 各種講座案内
- ▶ 産学連携・地域サービス
- ▶ 後援会
- ▶ 同窓会
- ▶ 保護者の方へ
- ▶ 新型インフルエンザ対応
- ▶ 情報公開
- ▶ 教育・研究
- ▶ 外部評価・自己点検評価
- ▶ 本校の取組み
- ▶ 施設
- ▶ 採用情報
- ▶ リンク集
- ▶ アクセス
- ▶ 利用者別メニュー
- ▶ 第49回中国地区高等専門学校体育大会(冬季大会)

学校教育法施行規則第172条の2に基づき、公表すべき教育研究活動等の状況

[1] 高専の教育研究上の目的に関すること。(第1項第1号関係)

- ・ 教育上の目的
- ・ 教育理念・教育情報

[2] 教育研究上の基本組織に関すること。(第1項第2号関係)

- ・ 本科
- ・ 専攻科

[3] 教員組織、教育の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。(第1項第3号関係)

- ・ 教員組織
- ・ 教職員数
- ・ 教員研究分野

[4] 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。(第1項第4号関係)

- ・ 入学者受入方針(アドミッションポリシー)
- ・ 学生定員・現員・入学志願者状況
- ・ 卒業・修了者数
- ・ 卒業生の進路

[5] 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。(第1項第5号関係)

- ・ シラバス

[6] 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。(第1項第6号関係)

- ・ 本科 試験・成績評価・履修基準
- ・ 専攻科 試験・成績評価・履修基準

[7] 校地、校舎等の施設及び設備その他学生の教育研究環境に関すること。(第1項第7号関係)

- ・ 所在地(アクセス)
- ・ 校内案内マップ
- ・ 校内施設・屋外体育施設
- ・ 課外活動状況
- ・ 教育研究施設

[8] 授業料、入学料その他の高専が徴収する費用に関すること。(第1項第8号関係)

- ・ 入学料・授業料等
- ・ 入学料・授業料免除等

[9] 高専が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。(第1項第9号関係)

- ・ 奨学金制度
- ・ 学生相談室・キャリア支援室
- ・ 学割制度・アルバイト
- ・ 留学生支援の状況

(出典 校外向け Web ページ)

クラブ便利

第16回スターリングテクノロジー
米子高専が5年連続日本一獲得

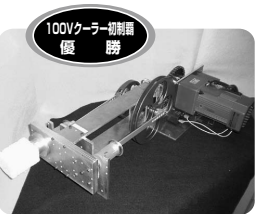
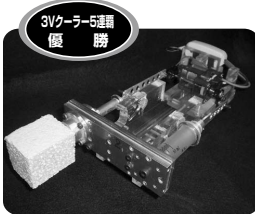
スターリング冷凍機部門二冠

スターリングエンジン部 部長 谷村 幸太 (機械工学科4年生)

平成24年11月10日、日本工業大学 (埼玉県) で開催された、第16回スターリングテクノロジー (企業、大学、高専などから79機関189チーム出場) の3V (ボルト) クーラー部門で、スターリングエンジン部チームが優勝し、米子高専として5年連続日本一を達成して金賞を獲得しました。...

3Vクーラー部門は、単三電池3本 (3.0V) 電源を駆動させ、冷却部3分間の最低温度を競います。米子高専の優勝記録は、室温から33.5度で2位(8.8度の差をつけて勝つことができました。この部門には、新たな機構やアイデアを採用した2機でも出場して3位 (銅賞) と上位に入賞できました。100Vクーラー部門は、直径20mm高さ20mmのアルミを10℃冷却させるときの消費電力の少なさを競う競技で、11560Jの記録で優勝しました。

全国の大学一般の方々と競い合い、これだけの成績をおさめることができましたのは、顧問の先生、ものづくりセンター技術部長の方々のおかげでもあり、感謝の気持ちをいびたいです。次の大会でも、上位入賞できるように、精一杯頑張りたいと思います。



トピックス

全国高専第23回プログラミングコンテスト

第23回プロコンを終えて -5年連続入賞 (課題・自由部門) & 初勝利 (競技部門) -

指導教員 電子制御工学科 河野 清尊 (自由部門) 一般教員 倉田 久晴 (競技部門)

全国高専第23回プログラミングコンテスト本選は昨年10月13日(土)と14日(日)の2日間に、有明高専を主催校として大田市の「大田市民文化会館」で行われました。...

本選では、自由部門に出場した電子制御工学科チームが特別賞を受賞することができました。2008年の課題部門で「最優秀賞」(電子制御工学科)を受賞して以来、2年連続で自由部門で入賞し、今年度は5年連続で入賞を果たすことができました。...

作品に対する会場内での評価が高く、(株)情報通信機構の「起業家甲子園」への出場作品に選ばれ、3月17日(土)に東京で行われる第2回大会に出場することになりました。また、作品の実用性と完成度が高く、すぐにも使いたいという要望が多かったことから、現在は、Apple Store/iPadアプリストアへのアップロードに取り組み中です。...

Table with 4 columns: Department, Team Name, Theme, and Award. It details the performance in the Free Department and Competition Department.

プロコン (自由部門) を終えて

電子情報工学科 4年 近藤 勇

私にとって今回は2回目のプロコン出場でした。2回目といっても昨年度はプログラムを書いていないので、プログラムを書くのは今回が初めてです。...

最初の発表の時にプログラムを書けなかったのが、良いアイデアはたくさんあったのですが、技術的に数ヶ月でどこまでできるかわからない問題があり、できることがわからなかった。何となく勝手がわかり開発が進んでいったのですが、最初は何かしら問題が起きていた。...

プロコン (競技部門) に参加して

電気情報工学科 3年 渡邊 宗成

今年度のプログラミングコンテストでは、コンピューター同好会から3名のメンバー2人と2名のメンバー1人の合計3名で競技部門に参加させて頂きました。...

今回の競技は、概してマイコンが駆使不出で入賞し、そのマイコンを制御するソフトウェアを競うもので、どれほど正確に早く動くことができるかを競うものでした。自分たちのチームはOpenCVという画像処理専用のライブラリを使用し、この課題へのアプローチを試みました。...

クラブ便利

2つの学術大会にてポスター賞を受賞

物質工学科 谷藤 尚貴

若い年代の科学研究を活性化させることを目的に、近年は様々な学会・コンテストにおいて学生の発表発表を奨励する制度が整備されるようになり、このように競争の場において入賞を目指すことが大切である。...

日本化学会日本大会優秀ポスター賞

物質工学科 5年 赤井 大気

私は昨年大学で行われた日本化学会大会で研究発表を行いました。会場では10分発表に加え281件ものポスター発表があり、どの発表者も熱心に聴かれました。...

2012 IACR利用ミニコンポジット材料賞

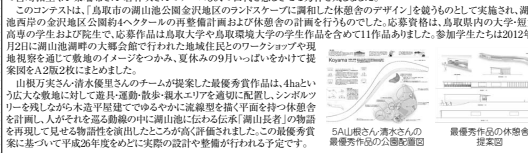
物質工学科 5年 松井 雅也

今回、私は2012 IACR利用ミニコンポジット材料 (炭素化学協会主催) において「ヨウ素を用いた無溶剤条件下で進行するS-S結合形成反応の調査と二次電池材料への応用」について発表を行い、ポスター賞を受賞いたしました。...

平成24年度鳥取県学生建築アイデアコンテストで最優秀賞を受賞

建築学科 細田 智久

2012年10月6日(土)に鳥取県文化会館で開催された平成24年度鳥取県学生建築アイデアコンテストにおいて、米子高専建築学科5年生の山根万実さん・清水保里さんのチームが優勝し、Koyama Lake side storyが最優秀賞を受賞しました。...



全国高専英語プレゼンコンテスト初出場!

外国語科

平成24年11月17日、大島商船高等専門学校において、第28回中国地区高等専門学校英語弁論大会が開催され、米子高専は弁論部、暗唱の部に出場し、計14名出場し、弁論部で物質工学科4年長谷川みづほさんが最優秀賞、暗唱で電子情報工学科3年岡本亮基さんが準優秀賞の栄冠に輝きました。...

クラス便利

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

トピックス

独立行政法人 国立高等専門学校機構

高専 米子工業高等専門学校

Yonago National College of Technology

検索

▶ 入学を希望される方
▶ 地域社会の方
▶ 企業の方
▶ 卒業生の方
▶ 同窓会
▶ 在学生の方

米子高専紹介コーナー



第49回 中国地区
高等専門学校体育大会 (冬季大会)



米子高専
虎の巻

RADIO CM
DARAZ FM
& 放送部

卒業生
メッセージ

CONTENTS

- ▶ ホーム
- ▶ 学校案内
- ▶ 専攻科案内とシラバス
- ▶ 学科案内とシラバス
- ▶ 入学案内
- ▶ JABEE
- ▶ キャンパスライフ
- ▶ 学生の活躍
- ▶ 各種講座案内
- ▶ 産学連携・地域サービス
- ▶ 後援会
- ▶ 同窓会
- ▶ 保護者の方へ
- ▶ 新型インフルエンザ対応
- ▶ 情報公開
- ▶ 教育・研究
- ▶ 外部評価・自己点検評価
- ▶ 本校の取組み
- ▶ 施設
- ▶ 採用情報
- ▶ リンク集

新着・お知らせ情報 NEWS

 '13/11/18 米子高専振興協会特別講演会を開催しました [企画・社会連携係] New!

11/12(火)、米子高専振興協会との共催で特別講演会を開催しました。



 '13/11/13 全国高専デザコン7連覇!! 2部門大臣賞! 4部門優秀賞以上! [建築学科]

'13/11/11 全国高専デザインコンペティションを開催しました! [学生係]

11月8日(金)~10日(日)にかけて、全国高専デザコン2013in米子を開催しました。米子高専は構造部門において国土交通大臣賞(最優秀賞)を受賞するなど、各部門で活躍しました!

 '13/10/21 高専ロボコン2013中国地区大会優勝!! 全国大会へ! [学生係]

 '13/10/11 創立50周年記念事業の寄付を受け付けています。募金の期間は来年(平成26年)9月末日までです。[総務担当]

 '13/05/23 防災避難訓練を実施しました [財務係]

主な予定

 '13/10/25 平成25年11月行事 [総務係]

専攻科案内

専攻科

学科案内

機械
工学科

電気情報
工学科

電子制御
工学科

物質
工学科

建築学科

教養
教育科

関連施設など

- ▶ 学生寮
- ▶ 図書館情報センター
- ▶ 地域共同テクノセンター
- ▶ 技術教育支援センター

資料請求

▶ 資料請求

台本等採録について

本校の取組み >>

公開講座




出前講座




(出典 校外向け Web ページ トップページ)

研究タイトル：

粘性流体を含む多孔質弾性体に関する研究



氏名：	権田 岳 / GONDA Takeshi	E-mail：	t-gonda@yonago-k.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	日本機械学会, 日本シミュレーション学会, 日本高専学会		
キーワード：	多孔質材料, 応力解析, 有限差分法, 有限要素法, 動的応答		

技術相談

提供可能技術：

- ・機械部品に関する強度解析(汎用数値解析ソフトウェアによる強度解析)
- ・各種金属材料の機械的性質の測定(引張試験, 硬さ試験, 抗折試験等)
- ・多孔質材料(焼結材料, 発泡材料)の強度推定

研究内容： 粘性流体を含む多孔質弾性体の応力と変形に関する研究

焼結金属などのフィルター材料をはじめ軸受材料, 構造軽量化材, 排水ろ過材, 衝撃吸収材など多孔質体から成る材料は工業上広範な用途を持っています。また, 人体の骨格, 関節, 消化器官, 循環器管などの生物学的構造物も流体に満たされた多孔質体として力学的に取り扱うことが出来ます。

このような, 空孔内に粘性流体を含む多孔質体のモデル(図1参照)では, 母材の変形と流体の移動が連成をするのが特徴的となります。本研究では, 粘性流体を含む多孔質体が衝撃負荷を受ける場合の動的応答について, 数値解析と実験の両面から取り組んでいます。

また, 近年では製法の進歩に伴い, 内部に含まれる空孔のサイズやその分布密度を傾斜配向させた不均質多孔質材料や, 空孔のサイズや分布密度の異なる層を任意に重ねた多孔質材料を製造することも可能となってきました。本研究では, これらの不均質多孔質材料や多層多孔質材料についても研究の対象とし, 数値解析による研究を行っています。

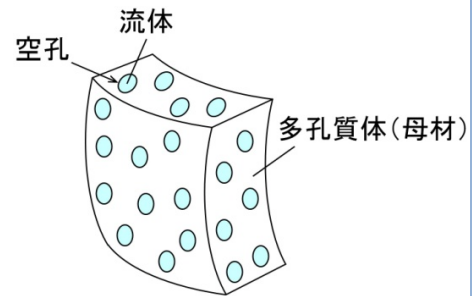


図1 多孔質体イメージ図

担当科目	基礎製図Ⅰ, 図形情報ワークショップⅠ, 材料力学Ⅱ, 一般工業力学, 弾塑性力学
過去の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・SPS装置を用いた用途開発(民間企業との共同研究, 2012年-2013年) ・小・中学生向け科学講座(独立行政法人科学技術振興機構 受託事業, 2012年)
近年の業績 (研究・教育論文、特許含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・学術研究論文: Takeshi GONDA et al., Dynamic Stress and Deformation of Non-homogeneous Poroelastic Moderately Thick Shells of Revolution Saturated in Viscous Fluid, Advanced Materials Research, Vols. 652-654, pp. 1466-1470, 2013. ・学術研究論文: 権田岳 他, 数値解析による多孔質材料の機械的性質の推定, 日本高専学会誌, Vol. 17, No. 3, pp. 83-86, 2012年. ・学術研究論文: Takeshi GONDA et al., Dynamic Stress and Deformation of Non-homogeneous Poroelastic Shells of Revolution Saturated in Viscous Fluid, Key Engineering Materials, Vol. 407-408, pp. 305-308, 2009.

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
精密万能試験機・5984型(インストロン ジャパン)	データロガー・NR-500(株式会社キーエンス)
ブリネル硬さ試験機・ABK-1型(株式会社ミツトヨ)	動ひずみ計・AS2503(NEC 三栄株式会社)
ロックウェル硬さ試験機・HR型(株式会社島津製作所)	表面粗さ測定機・SV-2100(株式会社ミツトヨ)
ヴィッカーズ硬さ試験機・AVK-A型(株式会社明石製作所)	シャルピー衝撃試験機・No. 141型(株式会社安田試験機製作所)
シオア硬さ試験機・D型(株式会社島津製作所)	数値解析ソフトウェア・ANSYS(アンシス・ジャパン株式会社)

資料 11-4-①-5

米子工業高等専門学校
地域共同テクノセンター

 技術相談申込み・お問い合わせ
 TEL 0859-24-5007

 ホームページからの
 お問い合わせはこちらから

TOP	組織概要	研究・技術について	公開講座	出前講座	人材育成事業	年間スケジュール
-----	------	-----------	------	------	--------	----------

米子高専 研究分野カテゴリ

	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	教養教育科	技術教育支援センター
環境/エネルギー関連：e x. エコカー・風力や太陽光発電・リサイクルなど	大塚 茂 早水 庸隆 森田 慎一	石倉 規雄 庄倉 克彦 松原 孝史 宮田 仁志		伊達 勇介 藤井 貴敏	前原 勝樹	中島美智子	大谷 文雄 上田 輝美 大塚 鐵雄 日野 英志
福祉/医療/健康関連：e x. 福祉ロボット・人工関節など	大塚 宏一 松本 至		中山 繁生			池本 幸雄 大野 政人 南 雅樹	
材料/次世代デバイス関連：e x. LED・液晶など	藤田 剛 原 圭介	浅倉 邦彦 田中 博美 松岡 祐介	井上 学 角田 直輝 能登路 淳	青木 薫 小川 和郎 谷藤 尚貴 小田 耕平 竹中 敦司 田中 晋	北農 幸生 山田 祐司		
バイオ/食品関連：e x. バイオセンサー・氷温など			山本 英樹	櫻間 由幸 藤井 雄三 村田和加恵			
計測/制御関連：e x. アメニティ技術など	矢壁 正樹	奥雲 正樹 権田 英功 新田 陽一	香川 律 原田 篤			竹内 彰継	松本 充 和田 美 岡部 誠
システムデザイン/情報・通信/ICT関連：e x. ソフトウェアデザイン・情報科学など		松本 正己	青柳 敏 河野 清尊 徳光 政弘			倉田 久晴	横田 晴俊 加納 史朗
コミュニティ関連/まちづくり・デザイン：e x. 都市計画・文化コミュニケーションなど					小椋 弘佳 金澤 雄記 熊谷 昌彦 高増 佳子 西川 賢治 細田 智久	加藤 博和 長福 香菜 布施 圭司 松崎 安子 山藤 良治	景山 肇
加工/生産/プロセス技術/ものづくり関連分野	権田 岳 山口 顕司				稲田 祐二 玉井 孝幸		谷本 明逸 小口 英樹 山脇 貴士 森 智広 岸 悠
自然科学						大庭 経示 川邊 博 古清水大直 小林 玉青 堀畑 佳宏	
人文社会						酒井 康宏 中井 大造 早水 (岸野) 英美 森田 典幸	

国立米子工業高等専門学校
地域共同テクノセンター

 〒683-8502 TEL : 0859-24-5007
 鳥取県米子市彦名町4448 FAX : 0859-24-5009
 E-mail : kikaku@yonago-k.ac.jp

(出典 校外向け Web ページ 地域共同テクノセンター研究分野カテゴリ)

資料 11-4-①-6 物質工学科受賞成果

米子工業高等専門学校							
米子工業高等専門学校 物質工学科 Department of Materials Science							
トップ	教育目標	カリキュラム	施設・設備紹介	スタッフ紹介	学生のひとこと	就職・進学情報	学生の対外活動
前年度実績							
ジュニア農芸化学会 (2013年3月25日 東北大学)							
卵の殻を用いたリサイクル発電～燃料電池への応用～ ※金賞							
大江ひかる・井田健太郎・西尾幸祐・田中美樹・若槻千晶							
第2回サイエンスインカレ (2013年3月2-3日 幕張メッセ)							
卵の内皮を劣化防止剤として導入した色素増感太陽電池の開発 ※協力企業賞							
清水香穂・安部希綱・谷輪弥音							
第18回高専シンポジウムin仙台 (2013年1月26日 宮城県名取市)							
リン酸コバルト (II) オリゴマーの色と熱挙動							
勝部友哉							
尿素均一沈殿法で合成したアンモニウム遷移金属リン酸塩の色と熱挙動							
渡辺健太							
リン酸銅 (II) オリゴマーの色と熱挙動							
末次和喜							
尿素均一沈殿法で合成したリン酸アンモニウム鉄 (II) の熱挙動							
北野貴之							
シジミ貝殻による水溶液中の重金属除去							
西村恭彦							
野菜に含まれるカリウムの除去方法の検討							
山口翔太							
シクロデキストリンおよびグリセリンを用いた吸着材の開発							
廣見祐太							
劣化した廃食油から製造するBDFの高品質化							
矢部あゆみ							
第56回学生科学賞 (2012年12月22-24日 日本未来科学館)							
卵の膜によるリサイクル発電～太陽電池と燃料電池への応用～ ※優秀賞							
大江ひかる・井田健太郎・西尾幸祐・田中美樹・若槻千晶							
2012ハロゲン利用ミニシンポジウム (2012年11月30日 岡山大学)							
ヨウ素を用いた無溶媒条件で進行するS-S結合形成反応の開発と二次電池材料への応用 ※ポスター賞							
松井郁也							
中国四国地区高専合同研究発表会in大連 (2012年11月13日 中国大連)							
Synthesis of Metal Complex utilizing "Click Chemistry", characterization and antimicrobial activity of Copper(II), Ferric(II) complexes							
○Yuki TAKEMURA, Yoshiyuki URUMA							
廃棄物資源循環学会研究発表会 (2012年11月10-11日 東北大学)							

(出典 校外向け Web ページ 物質工学科)

国立米子工業高等専門学校 専攻科

YONAGO NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY
Advanced Engineering Course

お問い合わせ

Tel.0859-24-5022

mail kyoumu@yonago-k.ac.jp

HOME

専攻科概要

特別研究

インターンシップ

進路

専攻科生交流会

特別研究

特別研究とは

特別研究は担当教員の指導のもとに、広く文献を調べその専門的視野を広げ、観測・実験・シミュレーション・設計などを通じて、研究開発のための創造的問題解決能力を養います。その成果は論文としてまとめられ、内容は公開されます。研究内容については、各学年における成果発表と学会などでの発表が原則として義務付けられています。

研究テーマは、各指導教員との綿密なディスカッションを行った上で決定されます。



特別研究テーマ&概要

[平成25年度 新入学生 特別研究 テーマ一覧](#)

[平成24年度 入学生 特別研究 テーマ一覧](#)

[平成24年度 修了生 特別研究 テーマ一覧](#)

[平成23年度 修了生 特別研究 テーマ一覧](#)

[平成22年度 修了生 特別研究 テーマ一覧](#)

[平成21年度 修了生 特別研究 テーマ一覧](#)

[平成20年度 修了生 特別研究 テーマ一覧](#)

[平成19年度 修了生 特別研究 テーマ一覧](#)

[平成18年度 修了生 特別研究 テーマ一覧](#)

[平成17年度 修了生 特別研究 テーマ一覧](#)

研究業績（表彰等）

[平成25年度 研究業績（表彰等）](#)

[平成24年度 研究業績（表彰等）](#)

[平成23年度 研究業績（表彰等）](#)

[平成22年度 研究業績（表彰等）](#)

[平成21年度 研究業績（表彰等）](#)

[平成20年度 研究業績（表彰等）](#)

[平成19年度まで 研究業績（表彰等）](#)

国立米子工業高等専門学校専攻科

〒683-8502

Tel.0859-24-5022（学生課教務・キャリア支援係）

E-mail kyoumu@yonago-k.ac.jp

Copyright Yonago National College of Technology all right reserved.

資料ダウンロード（学内専用）

（出典 校外向け Web ページ 専攻科）

資料 11-4-①-8 地方紙を通じた情報発信例

全国高等専門学校デザインコンペティション2012 in 小山 【大会史上記録 6年連続大臣賞受賞!!】
構造デザイン部門「最優秀賞」「審査員特別賞」空間デザイン部門「優秀賞」受賞

独立行政法人 国立高等専門学校機構

ホームページはこちら▶<http://www.yonago-k.ac.jp> [医学科](#) [工学部](#)

国立米子工業高等専門学校 建築学科

ごあいさつ

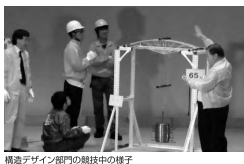
国立米子工業高等専門学校
校長 齋藤 正美

全国の高校生が構造・環境・空間デザインの力を競う「全国高等専門学校デザインコンペティション2012 in 小山(栃木)」において、米子高等専門学校が機械工学科の学生が構造デザイン部門で見事最優秀賞(国土交通大臣賞)を獲得しました。
 構造デザイン部門は毎年継続して最優秀賞を獲得し、審査員特別賞も受賞しました。また他の部門と通算すると連続大臣賞受賞6年目という大会史上記録を更新しました。
 空間デザイン部門は予選通過13作品中、米子高等専門学校を含む作品が予選を通過し、そのうち1作品が優秀賞を獲得しました。
 今年も多くの受賞を、米子高等と周知・山陰の名を大いに高めてきた学生諸君の努力と健闘を称えたいと思います。

構造デザイン部門(最優秀賞・国土交通大臣賞受賞)
代表: 建築学科5年 浦本 博之

私は3年生の頃から構造部門に参加し、2年連続で優秀賞を獲得しましたが、本選で力を出し切れなかったこともあり悔しさが残り、喜べないまま。そんな気持ちの中、今年も自分が出場者として今年こそ最優秀賞を想い、気持ちを切り替えて取り組みました。
 今年は例年と違い「決められた荷重で橋を壊す」というテーマだったので、かなり苦戦しましたが、期限ギリギリで、最優秀を狙える橋を設計できました。本選では設計通りの結果ではなかったため、少し悔しさを覚えたのですが、それでもやっぱり最優秀賞をとれて、はっとしています。
 来年は米子開催なので、今年以上に盛り上げて、4年生は、悔いの無いように取り組んでほしいと思います。今年参加してくれた1年生は、この経験を活かして、数年後は自分達の力で最優秀賞を獲得してくれると期待します。
 最後になりましたが、今回このような賞を獲得できたのは、自分一人の力ではなく、周りの方々のサポートのおかげだと思います。本当にありがとうございます。

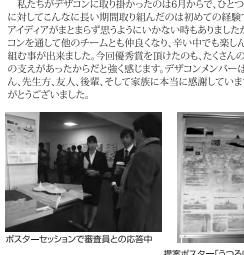
来年は米子開催なので、今年以上に盛り上げて、4年生は、悔いの無いように取り組んでほしいと思います。今年参加してくれた1年生は、この経験を活かして、数年後は自分達の力で最優秀賞を獲得してくれると期待します。
 最後になりましたが、今回このような賞を獲得できたのは、自分一人の力ではなく、周りの方々のサポートのおかげだと思います。本当にありがとうございます。



構造デザイン部門の競技中の様子

空間デザイン部門(優秀賞)
建築学科5年 清水 優里 村尾 大一

私たちは課題テーマ「Earthecture 天と地の間に」に対して、天と地の間には自然や時間などが流れ、つながりがあると考え、鳥取県内の各地を巡りながらその「流れ」を感じられる空間をイメージの礎として提案しました。本選では、周囲の環境によってどのように空間が変化し、人々はそこでどのような過ごし方をするかといった、空間の中で展開していく様々なストーリーをプレゼンしました。審査では、周囲が静かにつれてゆらゆらと揺れ、空間も変化しているという所有が評価され、優秀賞を頂く事に出来ました。最優秀と認められたのは悔しいですが、作品を認められた事がとても嬉しいです。
 私たちがデザインに取り掛かったのは6月からで、ひとつの課題に対してこんなに長い期間取り組んだのは初めての経験でした。アイデアがまとまるまで苦しい思いもありましたが、デザインを通して他のチームとも仲良くなり、卒中では楽しんだ思い出が思い出されました。今回優秀賞を頂いたのも、たくさんの方々の支えがあったからだと強く感じました。デゾコンメンバーはもちろん、先生方、友人、後輩、そして家族に本当に感謝しています。ありがとうございました。



ポスターセッションで審査員との応答中



本選に参加した米子高専学生たち

来年は米子に デザコンがやってくる!!

「デゾコン2013 in 米子」
 全国高等専門学校デザインコンペティション(来年度平成25年度・2013年)で第10回目を迎える大会となります。米子市デザインコンペティション実行委員会(以下実行委)は、今年度から「構造デザイン部門」「環境デザイン部門」「空間デザイン部門」「デジタルデザイン部門」の4部門に拡大し、予選を通過した学生たちが、米子で開催される本選(9月)に参加し、最終審査の場を体験していただきます。
 デザコンは元々、1977年(35年前)に明治高専(米子高専の前身)の建築学科の教員が学生教育のために交流を始めたことから始まりました。そのデゾコンの目的の一つ、米子で結果を見直すこと(振り返り)による、デザインという行為が育む、行為や思考の過程を伝えること、そして、その過程を共有し、互いに学びあうこと、を目的としています。
 課題テーマは地域に密着した内容のものもあり、全国の学生たちが考えたアイデアについて、第一線で活躍する著名な教員の方との質疑応答や講評など、地域の皆様にもご参加いただき、デゾコンを通じて地域を考える機会としていただけたらと考えております。今後とも米子高専共々、よろしくお申し上げします。
 ●主催 一般社団法人高等専門学校連合会 ●実施期間(公募)→2013年4月上旬
 ●協賛 独立行政法人国立高等専門学校機構 ●審査員会(公募)→2013年8月上旬
 ●主催校/米子工業高等専門学校 ●協力校/松江工業高等専門学校
 ●開催地/鳥取県米子市 ●審査員/鳥取県米子市
 ●開催日/空間デザイン、構造デザイン、環境デザイン、デジタルデザイン
 2013年11月9日(土)～10日(日)
 米子コンベンションセンター-BIGSHIP

祝2部門3賞受賞 今後ますますのご活躍に期待いたします。(順不同)

<p>(社)鳥取県建築士事務所協会 石倉保富建築構造設計 代表取締役 石倉 保富 (建築士・一級建築士) 取締役 堀越 和也 (建築士・一級建築士) 松江工業高等専門学校2丁目24-12 MFビル TEL:0852-26-7170 FAX:0852-26-2869</p>	<p>専門門協構造研究所 代表取締役 門橋 博子 (建築士・一級建築士) 主任 佐藤 隆夫 (建築士・一級建築士) 主任 佐藤 隆夫 (建築士・一級建築士) 鳥取県三朝2-12 TEL:0857-28-0832 FAX:0857-28-0808</p>	<p>Concept & Work (有)塚田隆建築研究所 代表取締役 塚田 隆夫 (建築士・一級建築士) TEL:0852-31-0000 FAX:0852-31-0001 E-mail:konishi@tsukadaka-kenteki.co.jp</p>	<p>(社)鳥取県建築士事務所協会の 株式会社 松本建築設計事務所 代表取締役 松山 龍久 (建築士・一級建築士) 常務取締役 佐田 龍久 (建築士・一級建築士) 米子市東町2-126 TEL:0859-32-3745 FAX:0859-22-1706</p>	<p>株式会社 フィデア 代表取締役 福井 龍介 (建築士・一級建築士) 米子市西福町6丁目19-22 http://www.fidia-japan.com</p>	<p>株式会社 MNHO 美保ソフト株式会社 代表取締役 野村 真 〒685-0027 米子市東町22番地 TEL:0859-33-9211 FAX:0859-22-0288</p>
--	--	--	--	--	--

(出典 平成 24年 12月 20日 地方紙掲載)

資料 11-4-①-9 地元ラジオでの情報発信例

平成23年 7月 6日(水曜日) 文 教 速 報 (第三種郵便物認可) 第7605号 -19-

米子高専、地元民放ラジオでの広報番組開始

米子高専は、高専の魅力をより一層広く一般に知ってもらうため、昨年実施した「高専の中身が大変良くなった」と地域の視聴者から好評だったラジオ番組を使った広報番組を今年も開始した。

ラジオ広報番組は、広く中学生や保護者などの視聴者に向け、入試説明会やオープンキャンパスでは伝えきれない高専制度や教育の中身、就職や進学や卒業後の生活情報などをわかりやすく聞いてもらうことを目的としている。

今年度は、昨年出演した教員や学生に加え、保護者や企業関係者をはじめOB・OGらの協力も得て、より多角的な視点から高専の魅力を伝える予定。第一回のトップバッターで出演した齋藤校長は、昨年に切り返すなどラジオ出演を楽しんでいた。

今回のラジオ広報プロジェクトは、夏休みのオープンキャンパスの告知も兼ねており、昨年以上の効果を期待している。このラジオ広報番組の音声は、昨年の放送も含めて米子高専ホームページ(<http://www.yonago-k.ac.jp/>)で配信。

生放送中の齋藤校長(左)と、米子高専の教員や学生(右)。

九博「よみがえる国宝」展が開幕

九州国立博物館では、九州新幹線全線開業記念「特別展 よみがえる国宝」を六月二十八日に開幕した。古来より信仰心によって、また、名家の勢いとして受け継がれてきた日本の美や宝、同展では、保存・修理・模造とかかわりの深い名品の数々を通して、名品を守り伝える日本のことと技を紹介する。

開幕に先立ち二十七日に開催された開会式では、三輪館長が「今回の展覧会は、目に見えない裏方に力を当てたもので文化財の保存と活用という博物館のコンセプトを率直に表していくために欠かさない保存や修理の技術を知ってほしい」と挨拶した。

続いて川崎西日本新聞社代表取締役社長、速達NHK福岡放送局長による主催者挨拶後、テープカットが行われた。

さらに開会式後の内覧会では、約四百五十人の招待者が展示会場での作品を観覧した。会場は、八月二十八日まで。

九博初公開の遺品(左)と、平成23年7月6日(水曜日)のテープカットを行う三輪館長ら。

(出典 平成 23年 7月 6日 文教速報掲載)

資料 11-4-①-10 地元商工会議所会報を通じた情報発信例

Chambre

シャムブル 8 米子商工会議所報
2013/August

URL <http://www.yonago.net> E-mail cci@yonago.net



経営情報コーナー Vol.25

消費税率引上げに向けての
経過措置の対応(第2回)

第140回
通常議員総会を
開催

(出典 平成 25 年 8 月 1 日米子市商工会議所会報シャムブル掲載)

Chambre

シャムブル 11 米子商工会議所報
2013/November

URL <http://www.yonago.net> E-mail cci@yonago.net



商工振興功労者・
優良従業員表彰式を挙行

特集
米子鬼太郎空港に
新路線就航
(スカイマーク)

(出典 平成 25 年 11 月 1 日米子市商工会議所会報シャムブル掲載)

シリーズ No.38 産学官連携トピックス 米子高専のシーズ紹介⑥

建物の健全性評価に関する研究



建築学科
玉井 孝幸氏

研究の概要
近年では、既存の建物を長く使いたいというニーズが多くなってきました。その際に問題となるのは、「建物の寿命」です。多くの公共施設ですでに行われている「耐震補強」は構造性を向上させますが、耐久性に関する補強はあまりアローズアップされません。そのため「構造は安心になったけど、いつまで使い続けられるの?」という声も聞かれます。当然、建物を長く使うためには、定期的な修繕を行わなければならないです。
修繕時の状況に重要な影響を与えるのは、コンクリートの中性化という現象です。本来、強アルカリ性のコンクリートによって保護されていた鉄筋は、コンクリートが中性化することで保護されなくなり、さびが始まります。鉄筋がさびると膨張して内側からコンクリートを壊し、補強補修が行われていても、建物の寿命を短くしてしまいます。
玉井研究室では、建物の寿命評価を行うための研究に取り組んでいます。例えば実際と同じ大きさの柱や梁の試験体を作って、建物の強度を把握する強度試験のあり

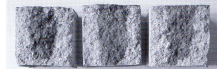
方、実際の建物の試験体から中性化する速度を見極める研究などを行っています。

アピールポイント
アービールポイントは、実際の建物から強度試験用の試験片を切り出すコアドリルを保有しており、本格的な改修設計前に改修方針を決める際高圧スチールで行えます。また、中性化の速度を試験する中性化促進試験機を山陰唯一保有しており、強度+耐久性の両面からサポートすることが出来ます。



中性化促進試験機(山陰唯一)

応用分野・展望
耐震補強の調査と同時に、本校で所有している非破壊の電磁波レーザー法による鉄筋の検出も「鉄筋がコンクリートで覆われている状態」を把握することで、施工の精度も含めた建物の寿命を追求することが出来ます。



中性化の試験体(柱) (左:鉄筋の検出結果、右:中性化の試験結果)

筋力増強の予防法に関する研究



教養教育科
大野 政人氏

研究の概要
寝ている時や運動している時に「脚がつった」経験がある人は多いと思います。これは「こむら返り(ふくらはぎの筋肉がつること)」でよく知られる筋痙攣(きんけいれん)といって、力を入れていないのに筋肉が勝手に収縮し、しばらく元に戻らない現象です。筋痙攣は人の年齢が経過していき、高齢者の半数以上が悩んでいる状態です。しかし、研究手法が確立されていないため、筋痙攣の発生機序や予防法に関する研究が少なく、トップアスリートでも筋痙攣の予防ができていないのです。筋痙攣の対処法として知られているストレッチングも、予防法としての効果は定まっていません。
そこで当研究室では、筋痙攣を誘発する「筋痙攣テスト」を考案し、(1)筋痙攣が誘発される者の特徴はあるか、(2)筋痙攣が誘発されない者に筋疲労や脱水などの要因を負荷した際に筋痙攣が誘発されるか、(3)筋痙攣が誘発される者に予防効果が考えられている食品や衣類などを用いることに筋痙攣が誘発されなくなるか、などの研究を行っています。

アピールポイント
この分野を専門とする研究者は少ないため、独自の研究を進展させやすい環境にあります。他の大学や企業と連携することにより、多くの生理学的評価法を用いることができます。また、シムブルな実験系を用いたフィールドワークも行っております。

応用分野・展望
筋痙攣が発生する状況は、運動だけでなく、睡眠、妊娠、病気(糖尿病、肝硬変、腎臓病)など様々ですが、ほとんどの筋痙攣はストレッチングによって治まることから、共通の予防法は身近なところにあると考えられています。症例研究による個々の予防法と合わせて、筋痙攣の予防法が提唱できれば、上記の他、幅広い分野に応用できることが期待されます。



筋力増強テストの様子

筋力増強した時の筋電図

シリーズ No.41 産学官連携トピックス 米子高専のシーズ紹介⑦

多孔質材料に関する研究

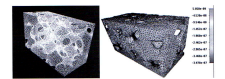


機械工学科
榎田 岳氏

研究の概要
多孔質材料とは、その名前が示すように物体中に空隙を有する材料のことを指します。私たちの身の回りに、工業製品としてはコンクリート、耐火材料、フィルター材料などの様々な多孔質材料が存在します。食パンなどの食品も多孔質材料であると言えます。このように、多孔質材料は非常に広い分野でその特性を生かして利用されています。
当研究室では、特に「多孔質材料の空隙に流体(水や油など)が浸透した場合」の強度や変形について研究しています。多孔質材料の空隙に水や油が含まれると、物体(多孔質材料)と流体の相互作用によって、内部に含まれている流体がクッションのような働きをして、独特の変形をします。この現象を研究するために、コンピュータを使った数値シミュレーションによる研究と、多孔質材料の変形の実験による調査を行っています。

アピールポイント
多孔質材料の内部の空隙に流体を含んだ場合、その流体がクッションのような働きをしますが、その応答時間は非常に短いことがこれまでの研究で分かっています。そのため、本研究では多孔質材料と流体のごく短時間で相互作用を調査するための数値シミュレーションや実験的な多孔質材料の変形(衝撃応答)の測定を実施しています。また、多孔質材料そのものの材料特性を調査するための数値シミュレーションも行っています。

応用分野・展望
流体を含んだ多孔質材料は、工業製品として見た場合、多孔質材料で構成されたフィルター材料や多孔質燃料油軸受が挙げられます。これらの強度評価の際、数値シミュレーションによって、焼結材料や溶注材料で構成された様々な多孔質材料の特性評価もできます。



数値解析で多孔質材料の構造を再現

省エネルギー高温超伝導材料に関する研究



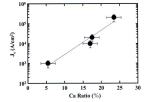
電気情報工学科
田中 博美氏

研究の概要
究極の省エネルギー材料である超伝導体は、エネルギー枯渇問題が深刻化する現在、再び注目を浴びています。特に、高温超伝導体を使用時の冷却負荷が小さいため無損失電力ケーブル等の応用が期待されています。しかしながら、超伝導では臨界電流密度(J_c)が急激に低下するため、実用化に向けて一層の特性改善が必要とされています。最近、この問題を克服するための手がかりが他の研究機関から報告されました。それは、高温超伝導体中存在する原子サイズの欠陥が、(超伝導中で超伝導体を貫く)磁束線を捕獲し、強いピン止め力を与えていること、強いピン止め力は、高い電流密度を流すことを意味します。従って、これまで強いピン止め力しか持たないと考えられてきた「原子サイズ欠陥」を制御することにより、ピン止め力を向上させ得ることを期待されます。この知見に基づき、我々は精密組成制御を用いた原子レベル制御導入を行い、高温超伝導体のJ_c向上を試みました。その結果、Ba系高温超伝導体において、J_c向上を改善することに成功しました(図1)。本手法においてはBi

系高温超伝導体の構成元素の一つであるSrをCaで置換しました。SrとCaは価数が同じでイオン半径のみが異なります。そのためキャリア密度を変えずに、構造歪を導入できます。そして、この構造歪が磁束を捕捉するため、多くの電流を流すことが可能であることが分かりました。尚、この元素置換が実際に生じていることは、X線光電子分光により明らかにしました。

アピールポイント
価数が等しいイオン半径が異なる元素を添加することは、材料中に局所的な歪を導入し、電気輸送特性等の諸特性を調整するトリックになっています。従って、本手法の概念は、強磁性高温超伝導体に限らず広く応用可能であると期待されます。

応用分野・展望
Ba系高温超伝導材料は、省エネ送電・大電流・強磁場を必要とする産業分野において幅広く利用可能です。そのため、多岐に渡る用途が期待されます。特に、電気自動車用モーターに活用することで「省エネルギー・高トルク」の性能を兼ね備えた次世代型電気モーターを実現できます。



Ba系高温超伝導体における酸素濃度と臨界電流密度の関係

米子高専―鳥取県・パーム州青少年交流事業の一環でものづくり体験型学生交流

鳥取県と米国パーム州が実施する国際交流事業「鳥取県・パーム州青少年交流事業」の一環として来日したパーム州の高校生が、4月26日午後、米子高専で学校交流を行った。このプログラムによる学校交流は4回目で、パーム州からの来県は今回が初めてとなる。

当日は、パーム州とエセックス高校の生徒11名と現地民間交流団体GATP(GA)の案内役として、The



歓迎の挨拶をする齊藤校長

交流イベントのメインであるものづくり体験型学生交流では、この交流事業が環境学習を柱としていることから、風力発電でLEDを点灯し、自然エネルギーを体感できる電子工作キット製作が行われた。学生たちは二人一組のチームに分かれ、技術職員の進行と専攻科生C/Pの助言の下、時に身振り手振りを加えながら英語で話し合い、約1時間に渡って、共同製作に取り組んだ。完成により、全員がモノづくりで一番大切な成功体験を味わうことができた。

その後、専攻科生C/Pの案内でキャンパス内や授業風景を見学し、高専ロボコンに出場したマシンのデモンストレーションで半日間の充実した国際交流の一時を締めくくった。

中央青少年交流の架、世界遺産登録に向け―

職員研修「富士山の麓で清掃ウォークラリー」

国立中央青少年交流の家では、この4月に異動した職員等の研修も兼ねて、所外のウォークラリーコースの実地踏査を5月16日に行った。この研修は、富士山が世界文化遺産に登録されることがほぼ確実になり、富士山を周近に望みながら活動できるプログラムの利用が増えることが予想されることに伴い、コ



7kmコースを歩いた服部所長(中央左)と職員



12kmコースを歩いた鈴木次長(中央右)と職員

当日は利用者対応もある中、16名の職員が7キロ(善徳寺・扶桑樹コース)と12キロ(赤坂・鍋有沢コース)の4グループに分かれて、コースの安全点検や危険箇所の確認、ガイドブック表示の再確認等を行うとともに、普段世話になっている地域へのささやかな思返りに、ゴミ拾い清掃活動なども併行して実施した。

小雨もちらつくあいにくの天気であったが、職員も地元の大自然や貴重な文化資源を満喫することができた。

(出典 平成25年5月27日文教ニュース)

平成25年度
米子工業高等専門学校
機械工学科
卒業研究発表会プログラム

主催 米子工業高等専門学校 機械工学科

共催 米子商工会議所

期日 平成26年 2月 4日 (火)

会場 米子商工会議所 7F 大会議室

日程 9:05 開会, 諸注意

9:15 発表開始

11:50 午前の部 終了・休憩

12:55 集合

13:00 午後の部 開始

15:50 発表終了, 講評

16:00 閉会

◎発表時間

複数名での講演 1テーマ13分 (発表10分, 討論3分)

第1鈴 8分, 第2鈴 10分, 第3鈴 13分

1名での講演 1テーマ11分 (発表 8分, 討論3分)

第1鈴 6分, 第2鈴 8分, 第3鈴 11分

(出典 平成26年2月4日機械工学科卒業研究発表会プログラム資料)